

# 若手チャレンジプロジェクト 提言書

令和5年3月

## 目次

若手チャレンジプロジェクトの概要.....	1
1班 図書館の魅力向上 .....	4
2班 保育サービス向上 .....	19
3班 自然を活用した地域振興策 .....	30
4班 住環境の整備.....	37

## 1 若手チャレンジプロジェクトの概要

若手チャレンジプロジェクトは、入庁3年目の若手職員で構成されており、薩摩川内市の市民サービス満足度及び職員の政策立案能力の向上を目的として、若手職員ならではの自由な発想でまちづくりに関する調査・研究を行うものである。

本プロジェクトでは、「市の魅力向上による観光、移住定住促進策」をメインテーマとして、様々な方向で市の魅力度を向上させるために、4つの班に分かれて、各テーマに関する調査結果を取りまとめた。

## 2 任期

令和4年6月15日～令和5年3月31日

## 3 研究事項

- (1) 薩摩川内市の市民サービスの向上に関すること。
- (2) 薩摩川内市のまちづくりに関すること。



#### 4 各班のテーマ

班	テーマ
1	図書館の魅力向上
2	保育サービス向上
3	自然を活用した地域振興策
4	住環境の整備

#### 5 構成メンバー

	所 属	氏 名	職 位	班
1	農林水産部畜産営農課	熊本 将	主事	1
2	未来政策部秘書広報課	重田明日香	主事	2
3	行政管理部行政経営課	松元莉子	主事	1
4	市民安全部税務課	橋口幸介	主事	〃
5	保健福祉部高齢・介護福祉課	福山雄大	主事	〃
6	保健福祉部市民健康課	福山詩織	主事	〃
7	市民安全部市民課	南郷海翔	主事	2
8	保健福祉部高齢・介護福祉課	立宅広奈	主事	〃
9	経済シティセールス部経済政策課	山下和樹	主事	〃
10	甌島振興局下甌支所地域振興課	竹ノ下光大	主事	〃
11	市民安全部税務課	上敷領紫苑	主事	3
12	保健福祉部子育て支援課	福田寛和	主任補	〃
13	経済シティセールス部経済政策課	崎山倫至	主事	〃
14	経済シティセールス部文化スポーツ課	宮藺未奈	主事	〃
15	水道局上水道課	土持恒貴	主事	〃
16	未来政策部企画政策課	三宅優佳	主事	4
17	行政管理部総務課	松元孝介	主事	〃
18	保健福祉部子育て支援課	上山桃茄	主事	〃
19	農業委員会事務局	平野聡志	主事	〃

## 6 検討の進め方

	開催日	内容
第1回	6月15日	辞令交付式 オリエンテーション テーマ内容話合い
第2回	6月28日	各班テーマ設定
第3回	7月26日	視察先の検討
第4回	8月25日	各班視察内容検討
第5回	9月26日	先進地視察結果報告 各班報告書作成着手
第6回	10月27日	視察内容の報告（各班ごとで）
第7回	11月24日	視察して本市で活かせること
第8回	12月13日	各班報告書取りまとめ
第9回	1月25日	各班報告書取りまとめ
第10回	2月21日	報告書作成
第11回	3月20日	市長提言

## 7 先進地視察先

班	テーマ	目的	視察先
1	図書館の魅力向上	中央図書館について、現在の機能を維持しつつ、利用価値を高めるような「改修」計画を立てる。	佐賀県武雄市
2	保育サービス向上	市内の保育所や保育園、幼稚園、託児施設の人材確保を支援し、市内の保育サービスを向上させる。	福岡県北九州市
3	自然を活用した地域振興策	薩摩川内市の豊かな自然と既存の施設を活かし幅広い年代が屋外で遊べる施設を作り、市の活性化を図る。	大分県日田市
4	住環境の整備	薩摩川内市はの移住しやすいまちづくりを計画し、定住者の増加により期待される、地域の活性化へ繋げる。	長崎県五島市

# 1 班 図書館の魅力向上

## 1 目的

「公共施設の充実」をテーマに、薩摩川内市内の公共施設の現状を調査した。その結果、利用者数が多く、築年数が進んでいる「中央図書館」に着目した。現在の機能を維持しつつ、利用価値を高めるような「改修」計画を立てることを目的とする。

## 2 現状

### (1) 薩摩川内市管内の公共施設について

薩摩川内市管内の公共施設は、全部で797施設（公民館、小学校、図書館、SSプラザせんだい等）。

その中で、利用者が多く、保護者と子どもが気軽に遊びに行ける施設が4施設ある。その4施設の概要は下記の表の通り。

【令和3年度現在】

施設名	築年数（年）	利用者数（人）
中央図書館	42	53,491
せんだい宇宙館	24	9,027
SSプラザせんだい	1	19,892
川内保健センター	23	21,324

【財産マネジメント課 ライブラリーより】

4施設の内、一番老朽化が進み、利用者数が最も多い「中央図書館」を、現在の図書館としての機能を保ちつつ、その他プラスアルファの機能を加え、複合的施設として改修する計画を立てることとした。現状の中央図書館の改修計画としては「空調施設の改修」のみであった。

### (2) 中央図書館の利用状況

#### ア 利用者数について

コロナ発生前の入館者数の月別の内訳を見ると、8月が最も多い（令和元年度データ）。理由として、夏休み期間ということもあり、小学生と保護者の利用者が増えることが原因と考えられる（下記の表を参照）。

【令和元年度 中央図書館利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	7,636	7,553	5,296	9,905	12,031	9,080	8,781	8,616	8,160	7,835	7,875	5,590

【中央図書館より開取り】

イ 世代別のイベントについて（

世代別に行われたイベントの、利用者数を比較すると、小学校低学年以下で行われたイベントが、最も利用者数が多くなっていることが分かる（下記の表を参照）。

※コロナ前の現状を把握するため令和元年度のデータを比較対象とした。

以上の結果から、小学校低学年以下の保護者を対象にアンケート調査を行うこととした。

【令和3年度】 幼稚園児、小学校低学年を対象に行われたイベント

幼稚園児～小学校低学年 対象		小学校低学年以上を対象	
イベント名	参加人数（人）	イベント名	参加人数（人）
おはなしひろば	152	16ミリ映画を楽しむつどい	47
わくわく図書館	107	ビデオ編集講座	10
おでかけ図書館	145	エコバッグをつくろう	8
わくわく体験	8	ブックカバーをつくろう	6
夏休み映画会	8	おはなし実践講座	21
わくわく展示会	63	シニア向けスマホ講座	19
		図書館教養講座	17
合計	483	合計	128

【令和元年度】 幼稚園児、小学校低学年を対象に行われたイベント

幼稚園児～小学校低学年 対象		小学校低学年以上を対象	
イベント名	参加人数（人）	イベント名	参加人数（人）
おはなしひろば	209	16ミリ映画を楽しむつどい	80
おはなしかい	165	ビブリオバトル体験	16
わくわく図書館	366	シニア向けスマホ講座	37
おでかけ図書館	1,138		
合計	1,878	合計	133

ウ 現状調査・見学してみたの考察

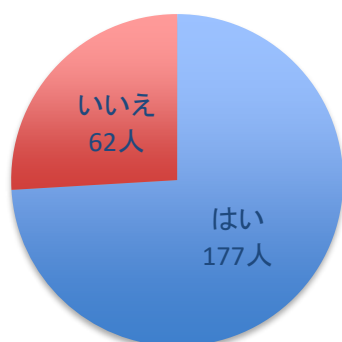
- ・大人が利用するスペースと子どもが利用するスペースが隣接しており、低学年や幼児・乳児と共に利用する事を考えると、声の大きさなど保護者はかなり気を遣うのではないかと思った。
- ・児童図書のスペースは1階にあるが、子どもへの読み聞かせの部屋（おはなしのへや）は2階にあり、2階でイベントをしている事を知らなければ、入りにくい感じがした。
- ・利用者数に対して図書館で読書ができるスペースが少ないように感じ、飲食も禁止されていることから長時間の滞在は難しいと感じた。
- ・併設されている中央公民館には視聴覚室や大研修室、和室など様々な部屋や設備があり、自主グループやサロン等の活動があるが、図書館とは直接行き来できる通路が封鎖されてる。図書館はイベントや休憩室等のスペースは少ない印象を受けたため、中央公民館と共同して実施することができれば、設備も十分に生かすことができるのではないかと感じた。

### (3) 利用者アンケート調査

今後の図書館を中心とした子どもたちの憩いの場創出のための調査・研究として小学校低学年以下の保護者を対象にアンケート調査を実施した。

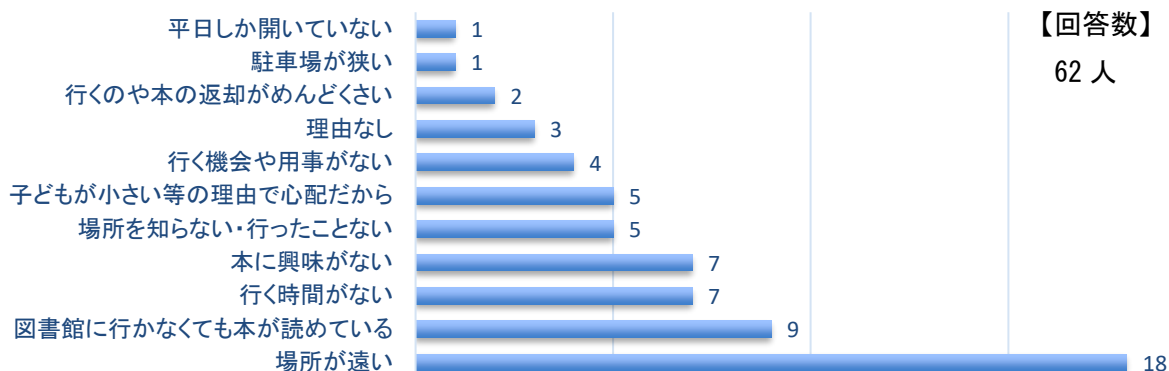
ア 図書館の利用状況とアクセス方法について) 【1】～【3】

#### 【1】 図書館は利用されますか。



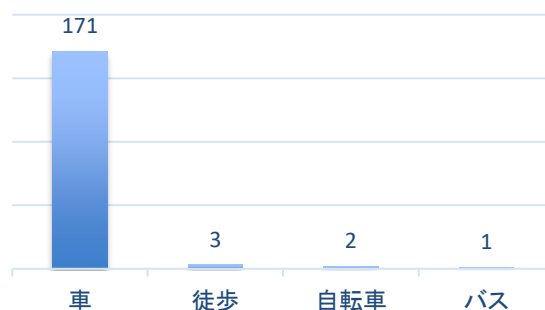
【回答数】  
239人

#### 【2】 【設問1:いいえ】を選択した人は、図書館を利用しない理由を記入してください。



【回答数】  
62人

#### 【3】 主な施設への交通手段を教えてください。



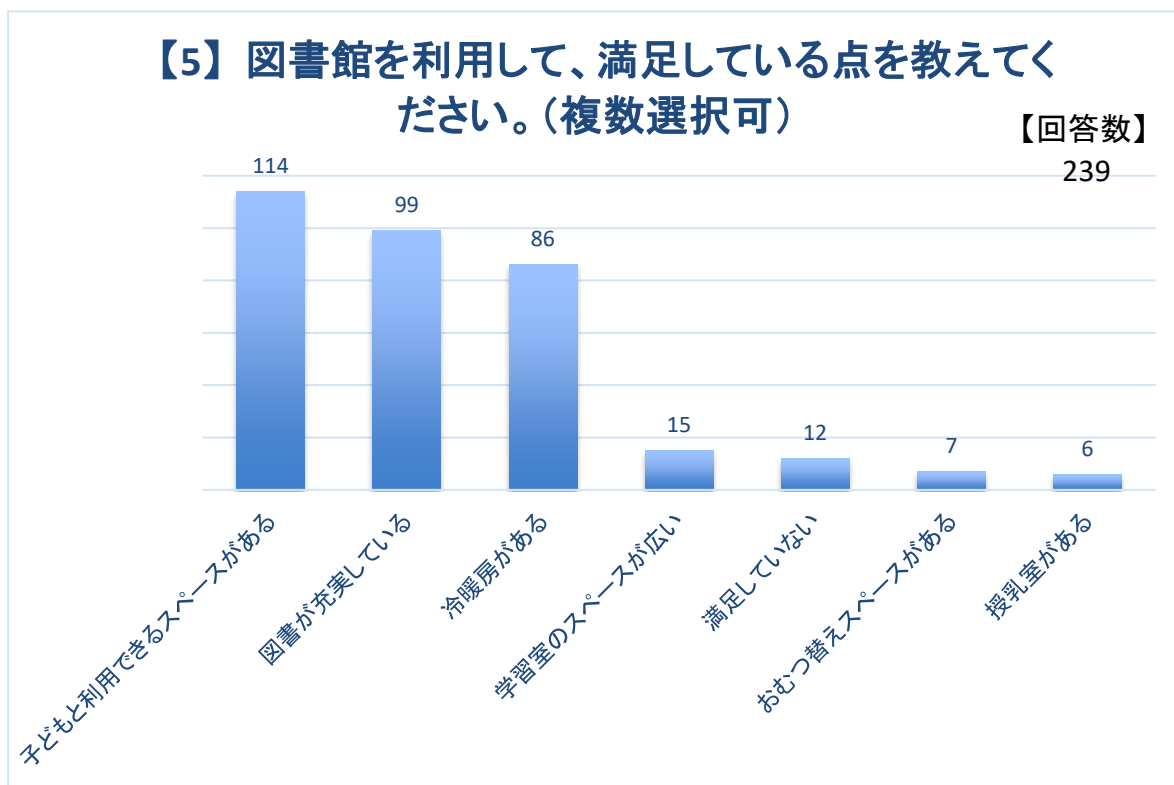
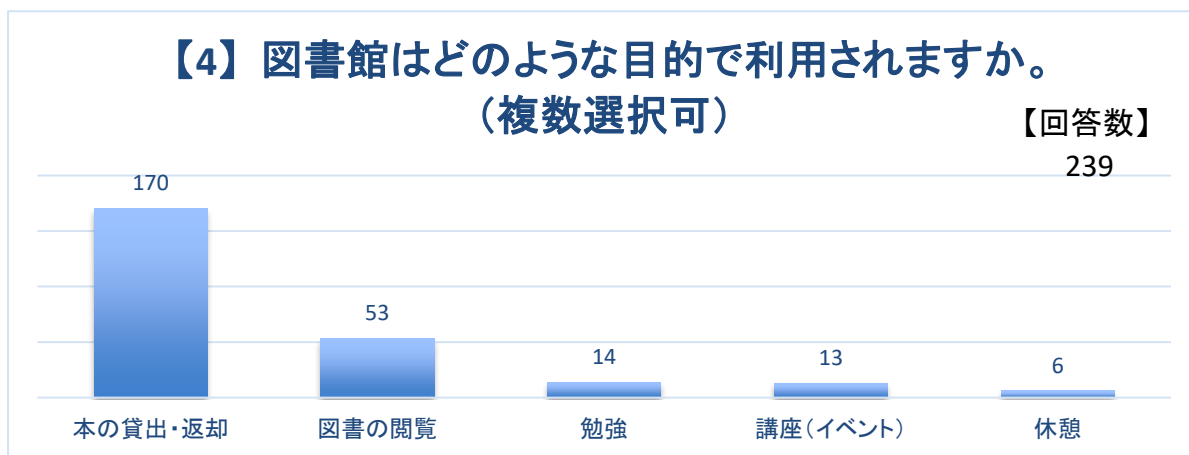
【回答数】  
177

- ・利用しない一番の理由は、「場所が遠い」であった。
- ・施設への交通手段は車が圧倒的に多いにも関わらず、駐車場が狭いという意見があった。駐



車場は80台停めることができるが、中央公民館と共有していることを考えると、利用者数やイベント来場者数の人数に対して少ないと考える。

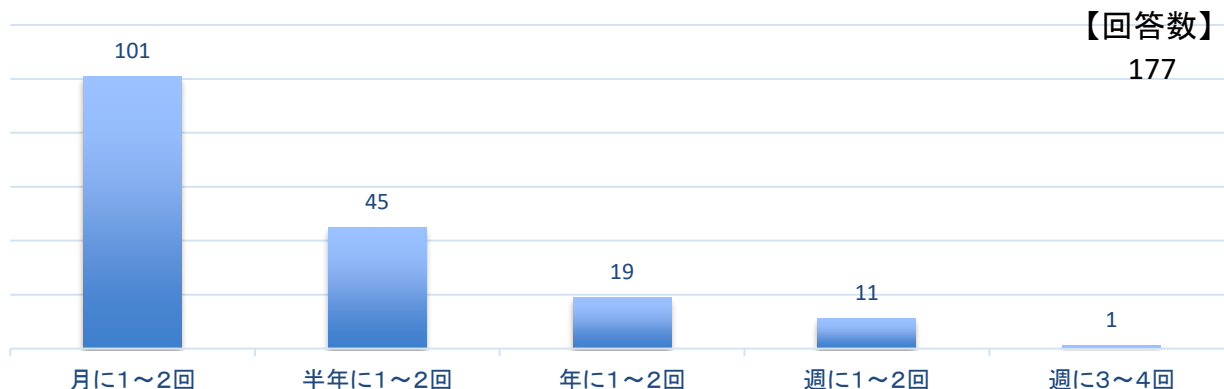
イ 利用目的について【4】～【5】



利用目的は本の貸出・返却が最も多かった。満足している点として、子どもと利用できるスペースがあると回答した人が最も多かった。このことから、図書館には子どもと利用できるスペースがあつて満足しているものの、図書館の利用目的が本の貸し借りが多いという結果は、図書館に子どもと滞在する時間は短いのではないかと思う。どのような目的で利用するかという項目から見ても、休憩するために利用するという意見は少ない。

ウ 利用頻度と開催イベントについて 【6】～【8】

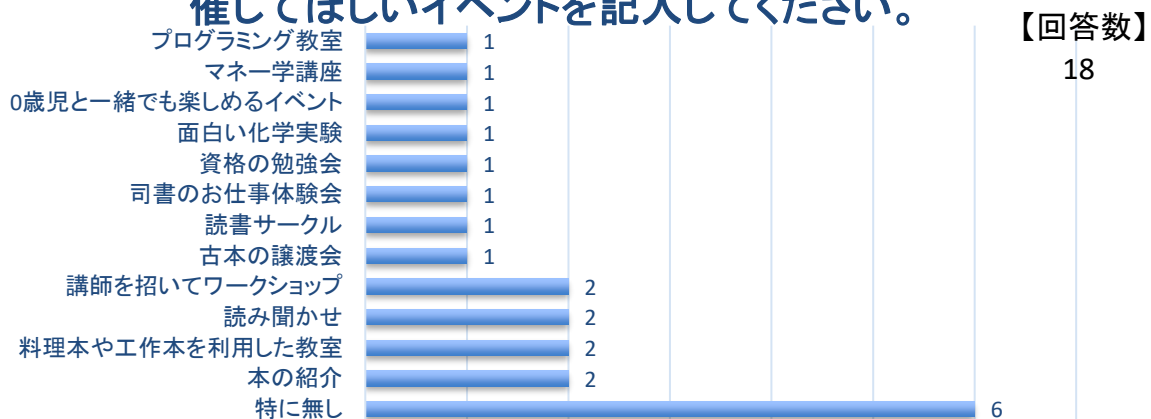
**【6】 図書館を利用する頻度を選択してください。**



**【7】 図書館で開催してほしいイベントを教えてください。(複数選択可)**

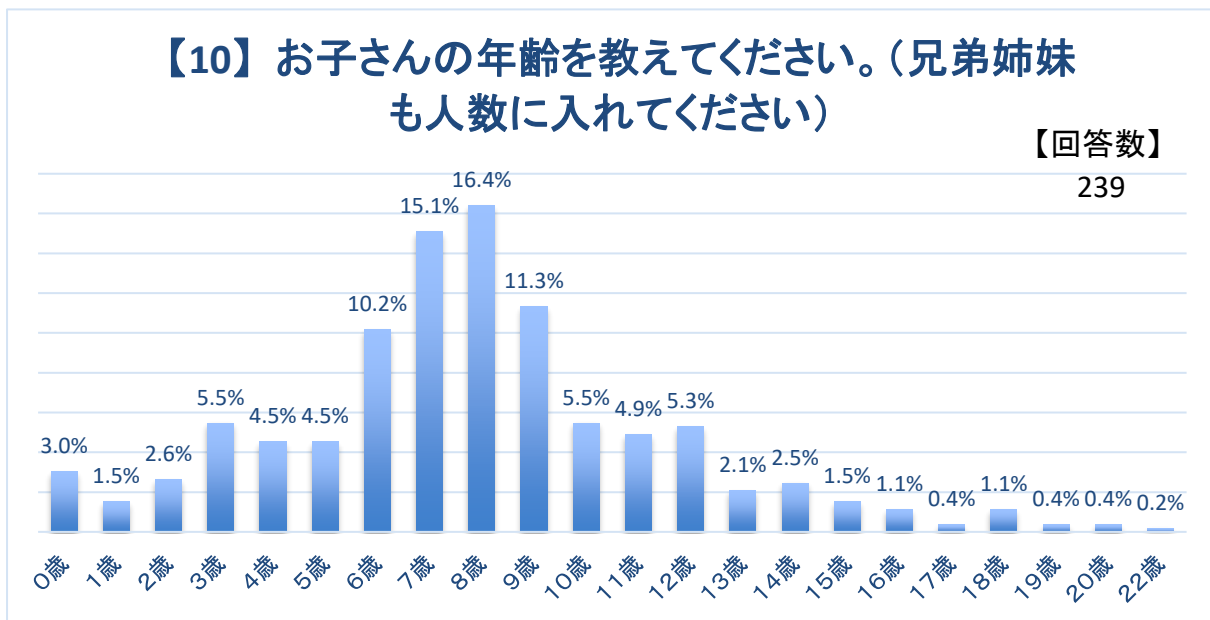
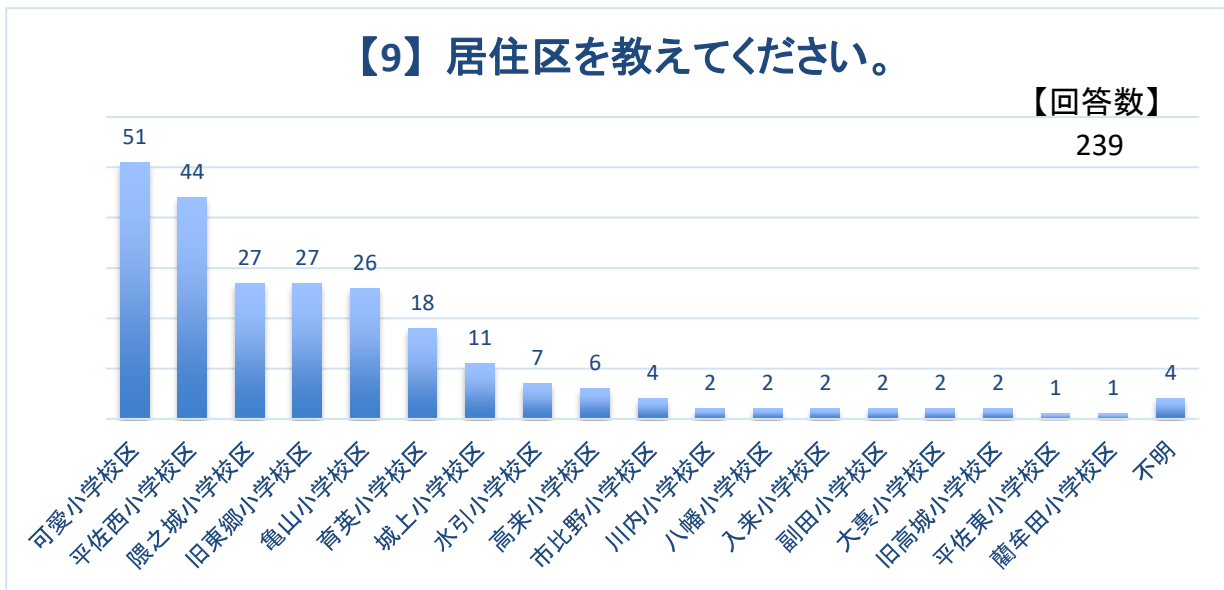


**【8】 【設問7:その他】を選択した人は、その他に開催してほしいイベントを記入してください。**



利用頻度について、月に1~2回利用する方が最も多い結果となった。開催してほしいイベントについては映画上映会となった。鹿児島市、姶良市へ行けば映画館があるが、子どもが小さい間は気軽に遠方へ外出することもできないので、そうした要望が多くなる要因だと考える。

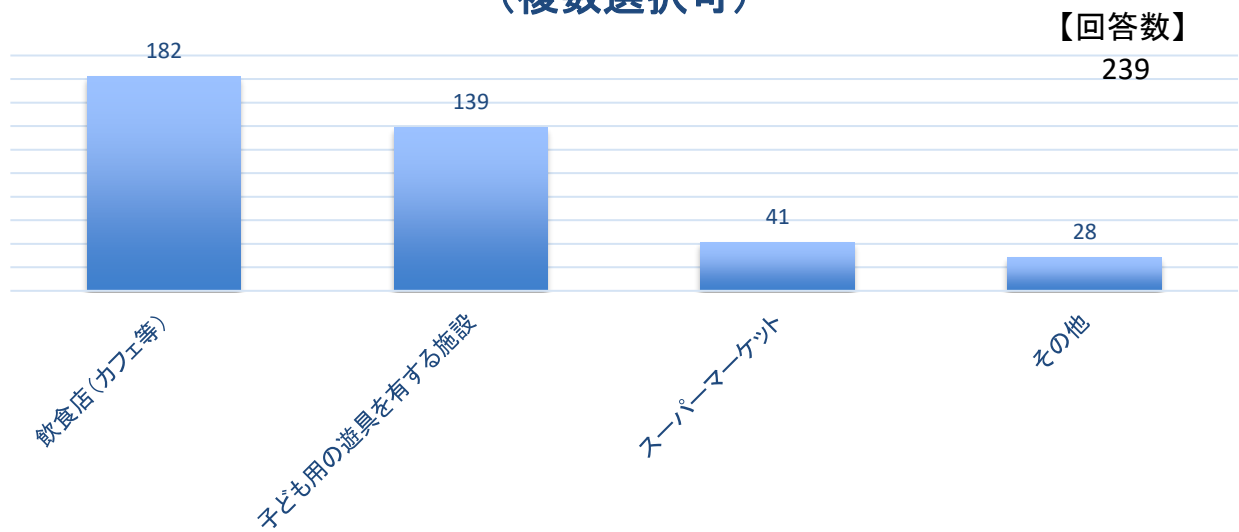
エ 回答者の居住区と家族構成について【9】～【10】



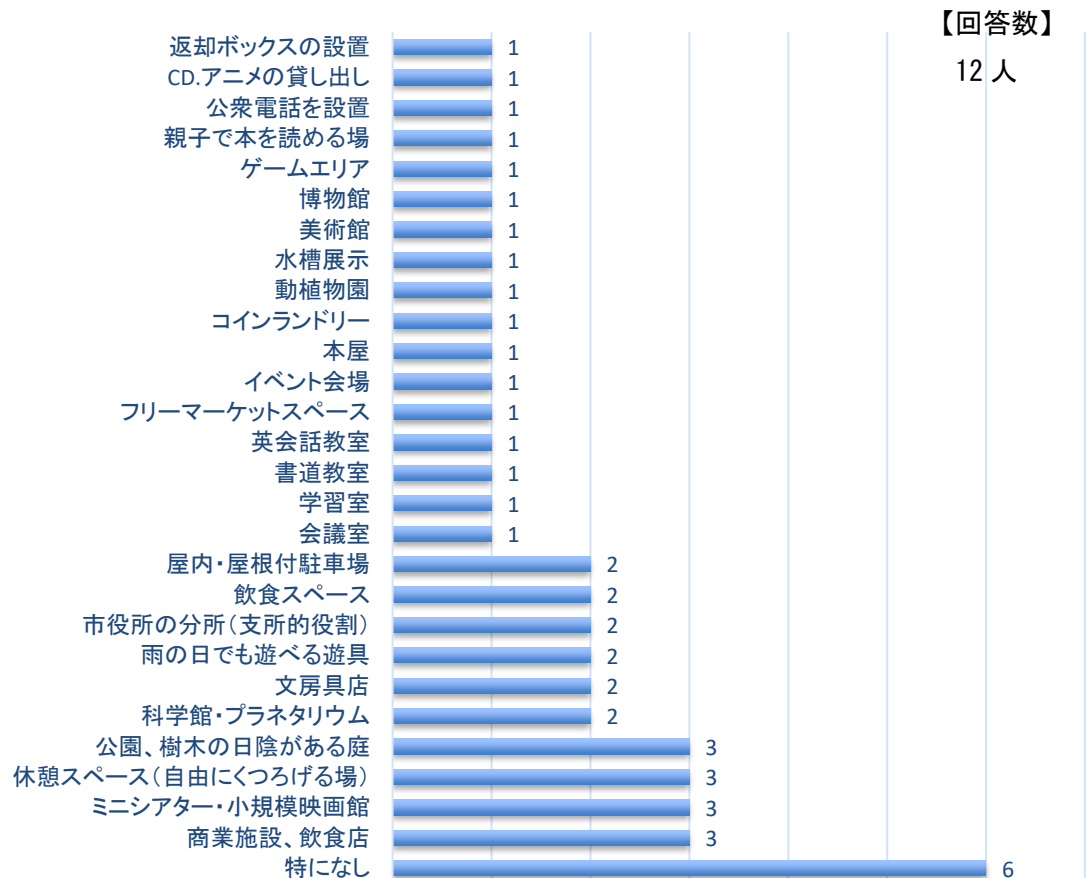
・居住区の割合は、配布者数が多いこともあり、旧川内市の小学校が多い結果となった。今回の回答対象者は、小学校低学年の保護者であったが、回答者の4割弱が、8歳以上の兄弟姉妹がいることが分かった。内訳として、10歳から15歳までが8割以上を占めており、小学校低学年の子どもには、中学生までの兄弟姉妹がいる世帯が多いことも分かった。

オ 図書館に併設してほしい機能【11】～【12】

**【11】 図書館に併設してほしい機能を教えてください。  
(複数選択可)**

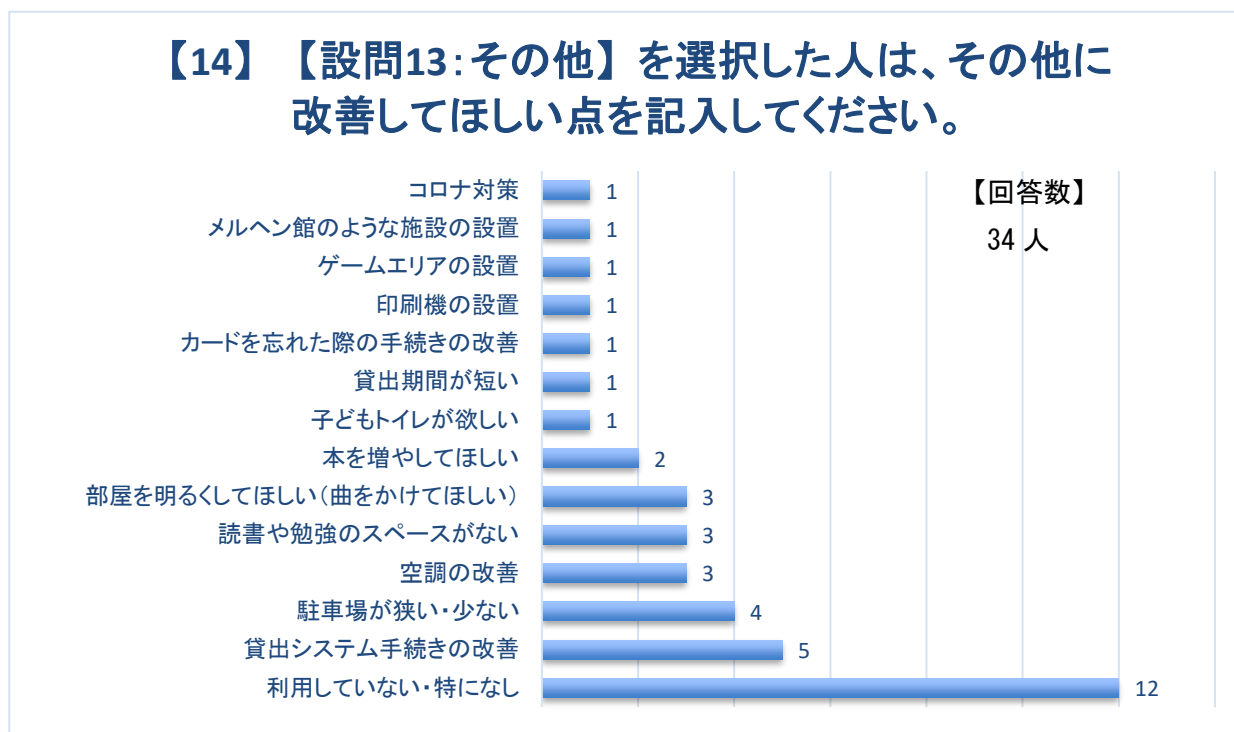
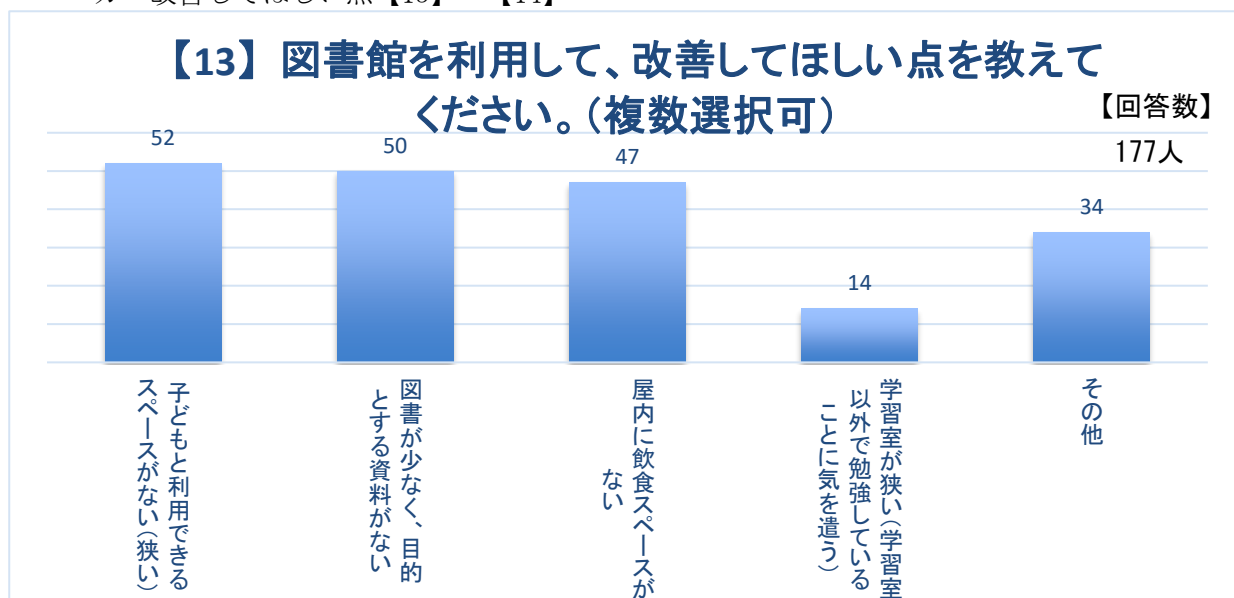


**【12】 【設問11:その他】を選択した人は、その他に併設してほしい機能を記入してください。**



・要望が多かったのは、カフェ施設と子ども用の遊具施設であった。アンケート結果の利用用途から見ても、最も多いのが本の貸出・返却であることから、図書館内でくつろぐことがないと思われる。このような施設を併設することで、図書館内でくつろげる空間を造れるのではないかと考える。

カ 改善してほしい点【13】～【14】



質問【5】の満足している点を教えてくださいという項目で「子どもと利用できるスペースがある」が最も多かったが、改善してほしい点で最も多かったのは「子どもと利用できるスペースが狭い」となった。子ども専用スペースについては満足しているが、狭いと感じているようで

あった。

#### キ まとめ

中央図書館は築47年で、耐用年数の60年(鉄筋コンクリート)に近づいている。しかし、改修・新設の予定はないとのこと。そのため、現状の施設を効率よく活用することが魅力度向上に繋がるのではないかと考える。利用者アンケートと実際に中央図書館を見に行ったことで気付いた現状の改善点や課題は下記のとおりである。

- (ア) 遠方からの来館者が多いが、駐車場が限られている(中央公民館との共同利用のため、中央公民館でイベントがある時は、駐車台数に制限がある)。
- (イ) 子供専用スペースと一般来館者スペースとの間に壁がないため、子ども専用スペースではあるが「静かにしないといけない」という空気が流れていると感じた。実際に子ども専用スペースを視察したが、狭いと感じることはなかった。図書館の職員に話を聞いたところ、子ども連れの親子さんは一般の来館者に気を遣うという意見もあるようで、申し出があった時は2階にあるおはなしのへやを利用してもらうとのことであった。
- (ウ) 中央公民館1階にある幼児室を、自由に利用できる部屋として解放してはどうか。
- (エ) アンケート結果により一番併設してほしい施設はカフェであった。しかし、現状では図書館内に入れるスペースがない。そこで、中央公民館1階ロビーにカフェ施設を設けることがいいのではないかと思う。
- (オ) 図書館にパソコン利用スペースはあるものの、4名分のスペースしかなく、パソコンを充電するコンセントも近くにはない状況。



(中央図書館1階 児童親子コーナー)



(中央図書館2階 おはなしのへや)



(中央図書館2階 パソコン作業スペース)



(中央図書館2階 読書コーナー)





(駐車場 国道3号線沿い)



(駐車場 中央図書館側)



(中央公民館1階 ロビー)



(中央公民館2階 ロビー)



(中央公民館1階 幼児室)



(中央公民館1階 視聴覚室)

### 3 先進地視察（佐賀県武雄市図書館）

#### （1）視察先の検討

中央図書館を現地視察し、アンケート調査までした結果「子ども専用スペースの問題」「パソコン作業スペースの問題」「カフェ施設併設の要望」が上がってきた。そうした中、県外の図書館を調べた中で、佐賀県武雄市にある武雄市図書館を見つけた。武雄市図書館は、パソコン作業スペースが充実しており、1席ごとにコンセントも併設されている。1階にはスターバックスが併設されており、コーヒーを飲みながら本を読める。また、平成29年にはこども図書館を新設し、こども専用スペースも確保されている。以上のことから、本市中央図書館の課題・要望を全て実現している武雄市図書館へ視察に行くこととなった。

#### （1） 図書館新設理由

ア 旧図書館は借地に立地していたが、新図書館は用地確保し新設（平成12年）

イ 来館者数が少ない

ウ ゆっくり本を読める空間がない（本の貸出・返却がメイン）

エ 重要文化財の展示場所がない

#### （2）運営方法の見直し

平成12年に図書館が新設されたが、来館者数は伸び悩み、利用者数が固定化されていた。そこで「新図書館構想」が掲げられた。

ア 新図書館構想

（ア）1年中開館（9：00～21：00）

（イ）活用（書店・カフェを併設）

（ウ）数多くのイベントを開催

指定管理者制度を利用し、CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）に運営を委託することで、新図書館構想を実現した。CCが運営する「代官山 蔦屋書店」では、書店の中にカフェが併設されている。この運営方法を活用し、書店・カフェ・図書館を併設した複合施設を建設した。

利用者に応じた空間造りもされており、学習スペース、読者スペース、パソコンの作業ができるよう机の下にコンセントが設置されている箇所もある。

#### （3）新図書館構想の実績

	来館者数（人）
平成23年（リニューアル前）	250,000
平成25年（リニューアル後）	920,000

リニューアル後の目標来館者数は50万人であったが、それを大きく上回る92万人となった。

利用者数については、武雄市内だけでなく、武雄市外と佐賀県外からも多く訪れている。

#### （4）こども図書館の新設

武雄市で子育てしたいと思ってもらえるような図書館を目指すというのをコンセプトに、こ



ども図書館を新設した。こども専用にするこゝで、他の来館者へ気を遣うことなく、子どもが自由に本を読んだり、遊べる空間を造った。



(武雄市図書館 パソコンスペース)



(子供図書館)

#### 4 施策の方向性 (具体的な取り組み)

##### (1) 運営について

##### ア イベント

##### (イ) 保護者向けのイベントの充実

現在実施されているイベントは小学生向けのイベントや高齢者向けのイベントが多い

が、視察先の武雄市図書館では、英会話教室や著名人の講話など大人向けのイベントも多く開催されている。アンケートにおいても、映画上映会やものづくり教室など、保護者も楽しめるイベントが上位に上げられている。実際に外出先の決定者は保護者であり、保護者も楽しめるイベントが開催されると集客につながり、図書館を利用するきっかけを作ることで、その後の利用者の増加につなげることができると思う。

(イ) 子供向けのイベントの充実について

ほんの貸し出しだけでなく、図書体験やシーズン系のイベント、自由研究のお手伝いなど、本に興味のない子供でも行きたくなるようなイベントを開催することで、図書館に行くきっかけをつくる。

イ 事務手続き

(ア) ポイントの導入

視察に行った武雄図書館は TSUTAYA と連携しているため、本の貸し出しで T ポイントが貯まるようになっている。それらと類似させ、本の貸し出しによって提言する複合施設で使えるポイントの導入。(子供がスマートフォンを持っているとは限らないため、ポイントはスタンプカードのようなものにする)。

(イ) 貸し出しカードを電子化

アンケート結果でもカードを忘れた際の手続きの改善の声があったが、貸し出しカードをスマートフォンアプリ等にする。(カードでも貸出可能)

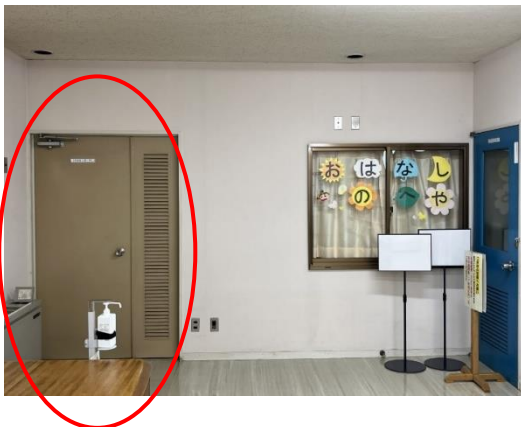
(ウ) 返却ボックスの設置

返却ボックスを中央図書館のみではなく本庁及び各支所等に設置する。

ウ 広報周知

(ア) おはなしのへやの活用

通常施設されているおはなしのへやを、一般来館者も申し出れば利用できることを、図書館の方へ聞き取りを行って初めて知った。個室として利用できる利便性が高い部屋なので、チラシ等でもっとアピールする。



(2) 小規模改修・利用面の改善について

ア テラスの活用

現在利用されていない、中央図書館と中央公民館の連絡通路にあるテラスを利用し、机と椅子を設置して飲食スペースを作る(一部にフェンスを設置し、安全性は確保する)。



#### イ 中央公民館にある幼児室の利用

現在、一部の団体のみ利用している幼児室を一般開放することで、子ども専用スペースを確保する。

#### ウ 中央公民館にある視聴覚室の利用

パソコン作業スペースが中央図書館は少ないので、中央公民館にある視聴覚室を利用する。

#### エ 中央公民館の1階ロビーの改善

照明の数が少ないのが原因なのか、1階ロビーが暗い。一般の方が入りやすいよう LED 照明を設置するなどして入口を明るくし、入りやすい環境を作る。



(中央公民館2階 テラス)



(中央公民館1階 ロビー)

### (3) 複合施設の併設について

#### ア 昼時のお弁当販売

中央図書館に1社、弁当販売に来ている業者がある。小規模改修で来館者を増やし、複数の販売業者に来てもらう。テラスの活用ができれば、購入したお弁当をテラスで食べることが出来るので、利用価値は高くなる。

また、館内にウォーターサーバーもしくは、コーヒーマーカーを設置することでお昼の時間以外でも館内でゆっくり過ごせる環境を作る。

#### イ カフェの併設

館内にカフェを併設し、本を借りる、イベントに参加するだけでなく図書館を市民の憩いの場として活用していく。

## 5 期待される効果

### (1) 運営について

#### ア イベント

大人向け講座と子ども向け講座を同時開校することで、親子で一緒に来館し、保護者も時間を余すことなく時間を過ごせる。子ども向け講座に参加した者は、大人になって、子どもができた時に、親子で参加すると思うので、大人向け講座も子ども向け講座も充実させることで、図書館の利用率が長期的に確保されると考える。

#### イ 事務手続き

複合施設と図書館で使えるポイント制を導入し、同時利用してもらうことで、利用者の増加が期待できる。カードを電子化にすることでカードを準備する必要がなくなるため、気軽にいつでも立ち寄ることができる。また、カード作成のコスト削減にもつながる。

返却ボックスを各支所等に設置することで、利用者の労力削減になる。

#### ウ 広報周知

中央図書館のおはなしのへやが利用できることを多くの方に知ってもらうことで、来館者の増加が見込める。

### (2) 小規模改修・利用面の改善について

飲食スペースを中央公民館に設けることで、子供と親がゆっくり本を読める場所を提供できる。また、学生や一般の来館者が学校の勉強・資格取得等で一日図書館を利用する際に、休憩や昼食を飲食スペースで過ごすことができる。さらに、テラスを開放することで、外でのイベントをするスペースができる。

### (3) 複合施設の併設について

弁当販売やウォーターサーバー、コーヒーマーカーの設置、カフェ併用を実施することで、テラスと併せた効果として、本の貸し借りやイベントの参加、勉強をする目的で来館した市民の憩いの場ができると考える。

## 2班 保育サービス向上

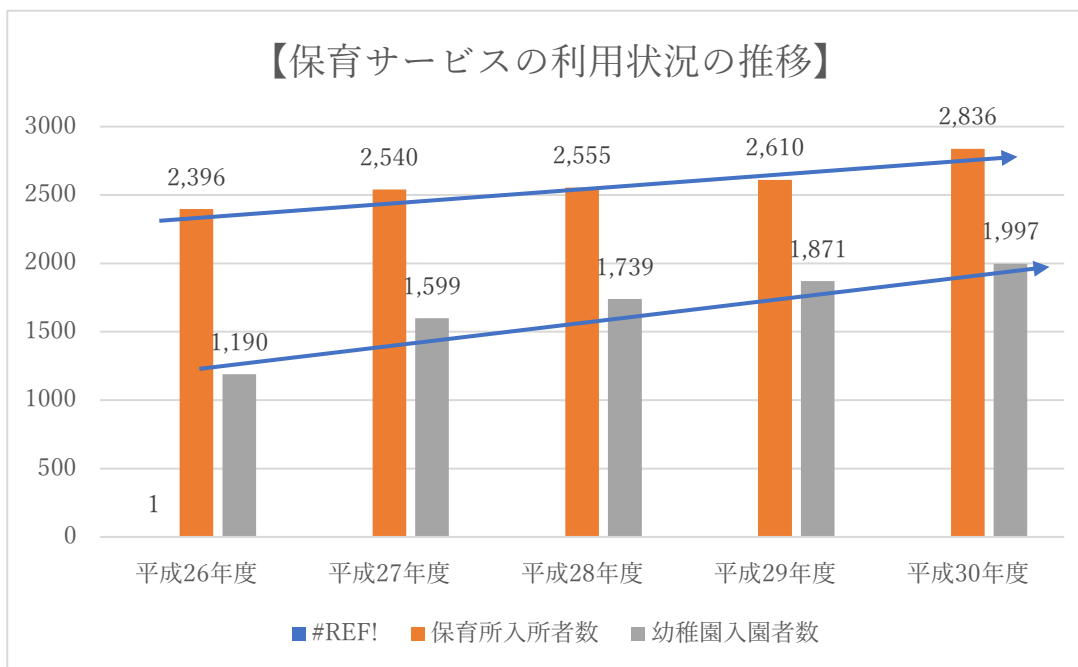
### 目的

市内の保育所や保育園、幼稚園、託児施設（以下保育園等）の人材確保を支援し、市内の保育サービスを向上させる。

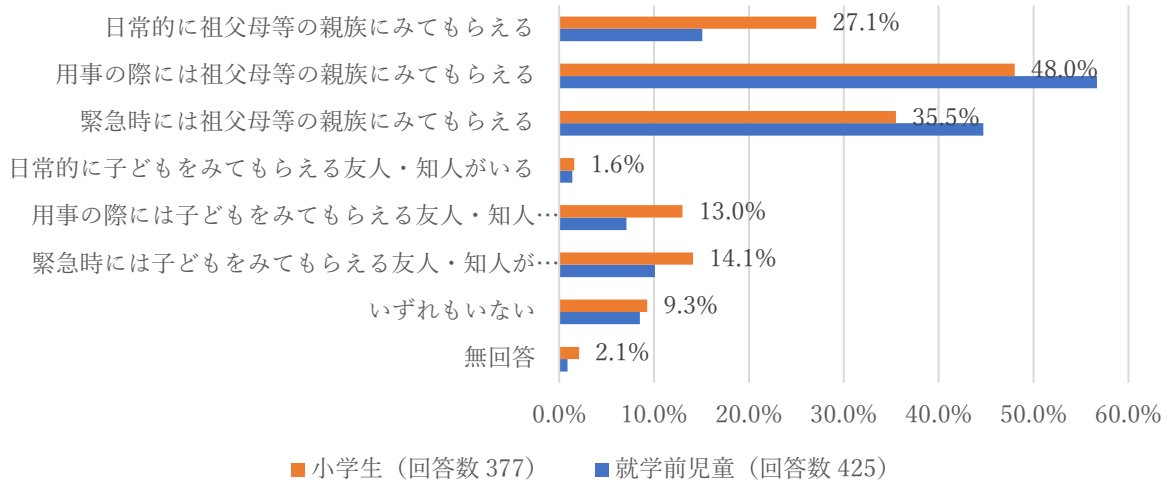
### 現状

「第2期薩摩川内市子ども・子育て支援計画」によると

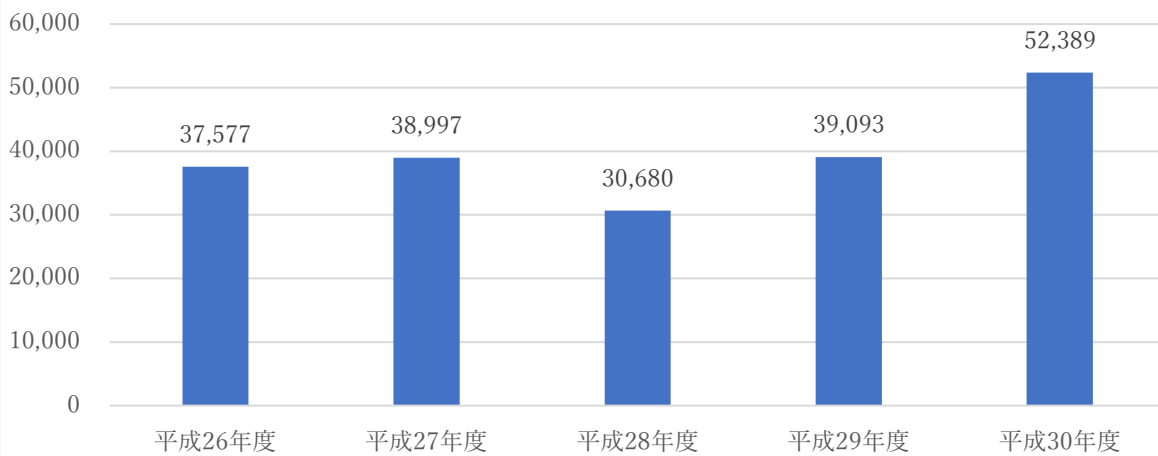
・本市の0-5歳人口は減少傾向にあるが、保育施設入所者数と幼稚園入園者数は増加傾向にある。また、幼稚園の預かり保育の年間延べ利用者人数も増加している。これには女性の社会進出や核家族化による共働きの増加（家族からの支援の減少）が理由になると考えられ、利用者の増加に伴い、一時預かり保育や延長保育、病児保育のような「保育サービス」はより一層需要が高まっている。このことから、当事者夫婦のみで仕事と子育てを両立することは困難であり、特に頼れる親族が近く住んでいないIターン者夫婦は、死活問題といえるほど保育サービスの充実は重要になっていることが伺える。



### 【子どもを見てもらえる親族・知人の状況（複数回答）】



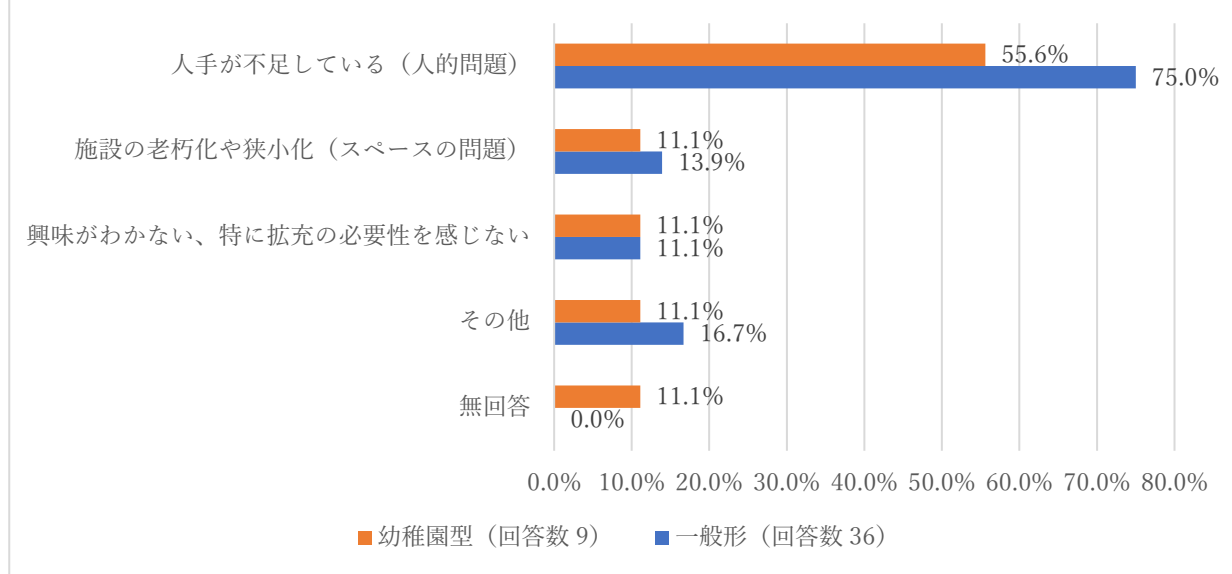
### 【幼稚園の預かり保育の年間利用延べ人数の推移】



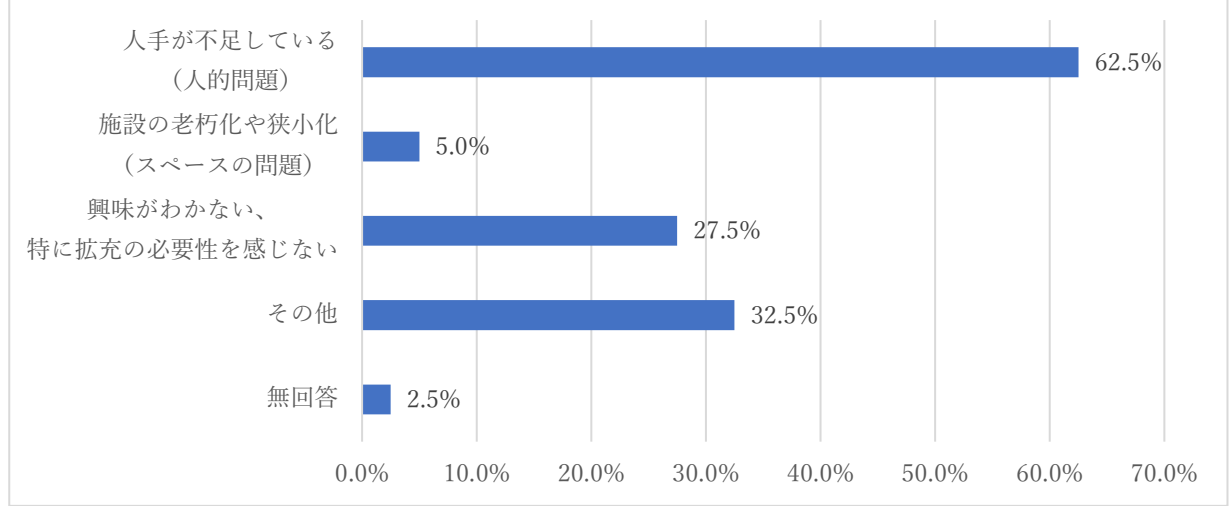
#### 保育施設・幼稚園側の意見として

・一時預かり保育、延長保育において、体制強化する予定がない理由として、「人手が不足している」が最も多くなっている。

【一時預かり保育の体制を強化する予定がない理由（複数回答）】

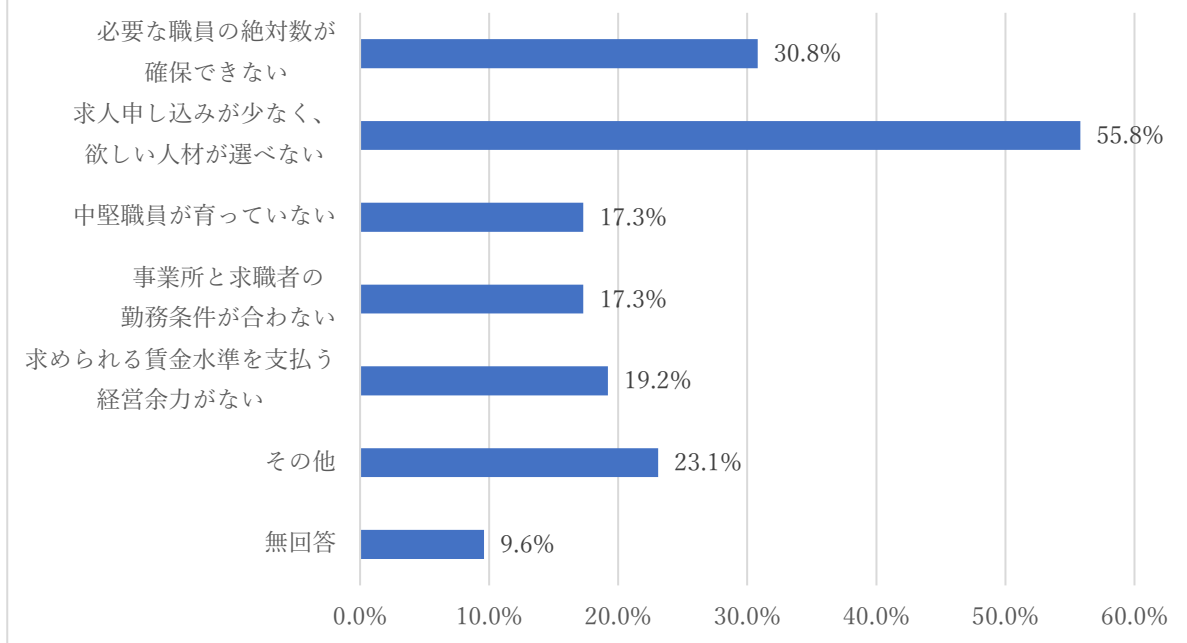


【延長保育の体制を強化する予定がない理由（複数回答）】 回答数 40



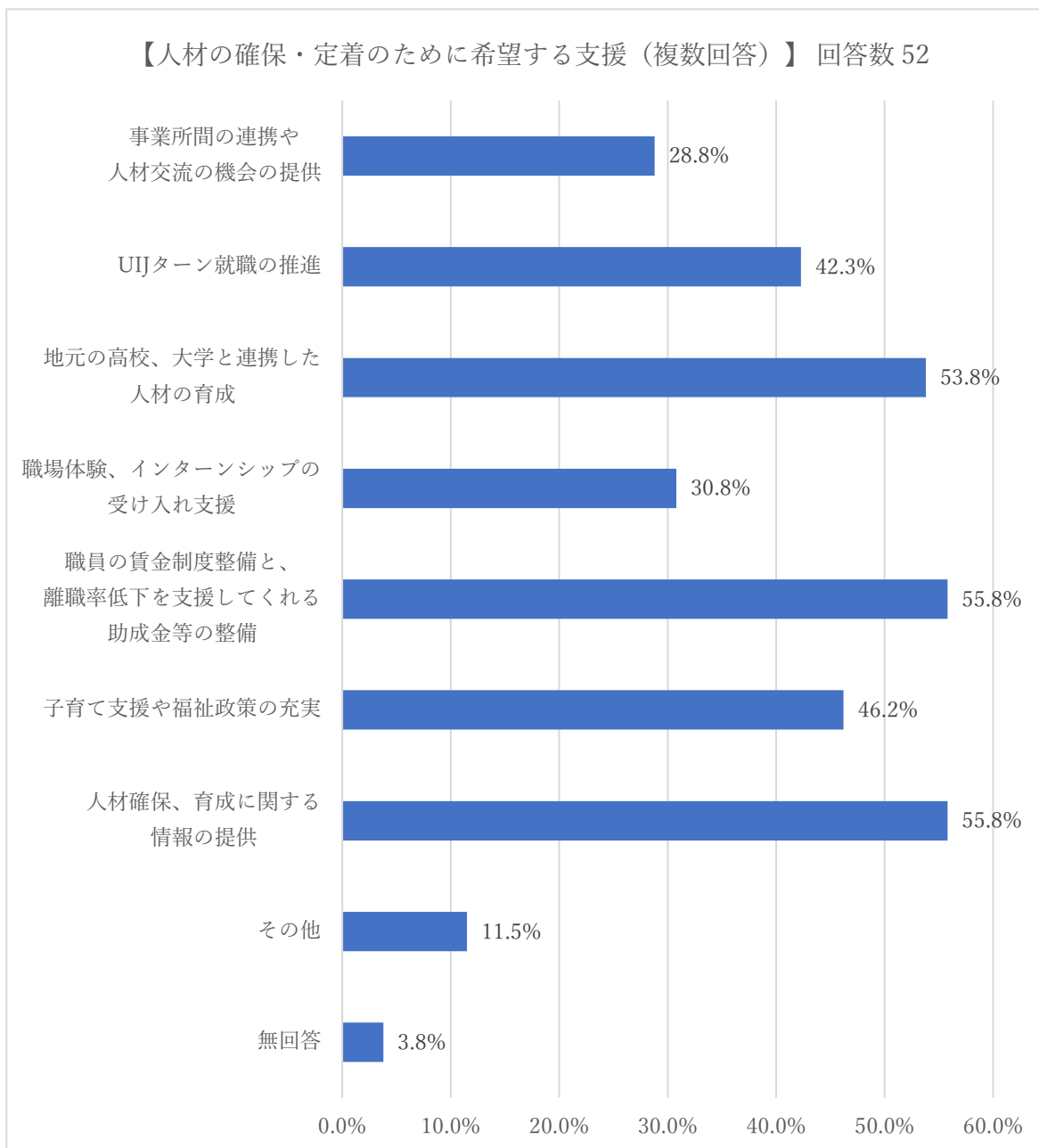
・直面している人材確保の問題として、「求人申し込みが少なくほしい人材を選べない」が 55.8%、「必要な職員の絶対数が確保できない」が 30.8%となっている。

【直面している人材確保の問題（複数回答）】 回答数 52



- ・令和3年7月14日第4回令和デザイントークにおいても、「教育のニーズに対応したサービスを提供するためには、人材確保が不可欠な状況」「幼稚園の保育時間が長時間となっており、ニーズに対応するための体制確保が課題」という意見があった。
- ・子ども・子育て支援に関する事業所アンケート（第2期計画 p.41~）では、人材の確保・定着のために希望する支援として「人材確保、育成に関する情報の提供」と「職員の賃金制度整備と、離職率低下を支援してくれる助成金等の整備」がそれぞれ55.8%となっている。





⇒全体的に慢性的な保育士不足が発生していることにより、一部には利用者定員の確保や、延長保育事業及び一時預かり事業等への取組が困難となっている施設がある。保育士不足の解消は、預かり育等の体制を整え、子育て世代の多様な働き方を支援する一助となると考える。

#### 《県の人材確保に関する取組》

##### ●鹿児島県保育士人材バンク

保育士の資格を持っており、県内で保育士として働きたい方の就職や復職をサポートするため、市町村と連携した求人施設とのマッチングや、就職等に役立つ最新情報を提供するサイト。令和2年度から開始。

問題点：・ホームページ内研修・お知らせページでの説明会・研修会等のイベントは、「2021年12月16日」が最後となっている。

- ・令和4年9月時点（開設から2年半）で就職実績3名。

《本市の人材確保に関する取組》

●保育士就職支援金交付（令和4年度より開始）

保育士の人材確保を行うため、本市の保育所等に就職し、常勤保育士として新たに働く方に直接給付を行う

- ①勤務地が本土区域の場合 20万円
- ②勤務地が甕島区域の場合 30万円

⇒育児を行う保護者に向けての政策は整えられているが、保育士の人材確保のための支援や取組についてはそれに比べると手薄に感じる部分がある。特に潜在保育士や保育士志望の求職者に対して情報提供によるアプローチが少ない。

## 視察内容

先進地視察（福岡県北九州市、ウーマンワークカフェ北九州）

全体的に慢性的な保育士不足が起きているという現状から、潜在保育士への保育所再就職・復帰支援資金貸付事業を成28年度から行っている実績や、保育士と保育施設をつなぐ相談施設を設けるなど、その他保育士に向けた施策を数多く行っていることから北九州市を視察先とした。

### 1 保育士・保育所支援センター（子ども家庭局保育課）

（事業の概要）

同市内の保育士不足を受け、保育士等の安定的な人材の確保を図るため平成27年4月1日から国や県と連携し、無料職業相談所として開設し、求職者と保育施設のマッチングを行う。平成28年5月に現在のウーマンワークカフェ北九州内に移転

（事業実績等）

- ・令和3年度の求人・求職の成立件数は103件となっている。
- ・年間では約1,000件の相談が寄せられている。
- ・同センターには保育士の資格をもつ職員が2名配置されており、実際に経験した人の目線からもアドバイスができる環境となっている。

（周知の方法）

開設当初の同センターの周知については、ハローワークや区役所等の関係機関へのチラシ配布や、広報誌掲載、新聞折込を行うほか、モノレールや商業施設等の人が集まる場所にポスターを掲示している。

（今後の課題）

今後はオンラインでの相談も対応できるよう整備を進めていきたい。

## 2 保育士就職支援事業（子ども家庭局保育課）

### （事業の概要）

この事業は、北九州市私立保育連盟に委託をして実施している。主な内容としては、年に1度「保育フェア」と呼ばれる保育士のための就職支援説明会を実施するほか、養成校を訪問し北九州市の保育についての講話も実施している。

### （参加保育所（園）募集について）

・参加保育所（園）については、同市から個々に案内を送り参加を募っている。令和3年度は89の保育所（園）が参加し、132名の方にご来場いただいた。

## 3 保育サービスコンシェルジュ事業（子ども家庭局保育課：山本係長）

### （事業の概要）

・保育等に関する相談に応じ、利用できる保育サービスに関する情報提供や、利用に向けての支援を行う「保育サービスコンシェルジュ」を配置するもので、国の利用者支援事業を活用し実施している。

・導入にあたっては、県の担当課に相談をした。

・テレビでも紹介され、YouTube「今日の焦点・北九州」にもアーカイブが残っている。

## 4 保育士宿舍借り上げ支援事業（子ども家庭局保育課）

### （事業の概要）

市内保育所を運営する法人が、雇用する保育士を法人が借り上げた宿舎に入居させる場合の宿舎借り上げに係る経費を補助するもの。

### （事業実績等）

今年度は利用法人5、利用保育士5名（9月末現在）となっており、他の実施自治体と比べ、法人負担が大きいこともあり利用数が伸び悩んでいる。

## 5 若年層保育士に対する処遇改善事業（同上）

### （事業の概要）

・市内保育所に就労する若年層に対し、処遇改善を行うことで、人材の案手的な確保及び離職防止を図るもの。

・1年目は、就職時準備金（50千円）を支給し、2・3年目は処遇改善手当（5千円／月）を支給。

### （その他）

・正規の若年層保育士の離職率は、中堅・ベテラン保育士と比べると、約1.6倍となっている。

・他の職種との初任給の差額を算出し予算の積算を行った。

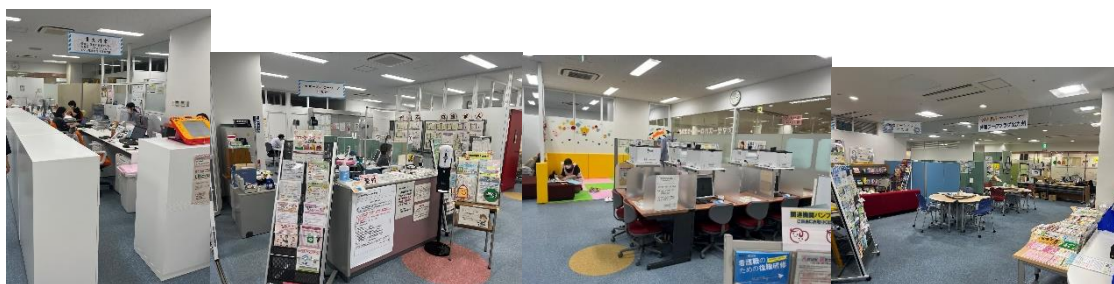
- ・手当の支給によって俸給とのずれが生じるため、考慮しながら額を設定する必要がある。

## 6 ウーマンワークカフェ北九州（保育サービスコンシェルジュ）

・認可外の保育所等を紹介できるマザーズハローワーク、県の子育て女性の就職支援センター、そして市の取組みである保育士・保育所支援センターなどが一緒になっている施設。相談対応の際に、認可外の保育所についても対応できるよう組織同士の連携を密に行っている。

・受付で求職者のニーズを聞き取り、紹介をするながれとなっている。また、カード会員制の仕組みを採用し、相談者の対応履歴をデータで管理することでよりよい対応ができるようになっている。

- ・希望職を探すうえで多い条件は、「扶養の範囲内で働ける10時～15時のパート職」である。



## 施策の方向性

### 提言

以上のことをふまえると、本市は求職者（保育士等）に対する情報提供の場や相談窓口が少ないことが伺える。特にUIターンによる地方への移住を検討している方や、大学や専門学校等の学生が気軽に情報を得られるような仕組み作りが必要だと考える。よって、前述の課題解決のため本市の現状と視察で得た情報を取り入れた以下の施策を提言する。

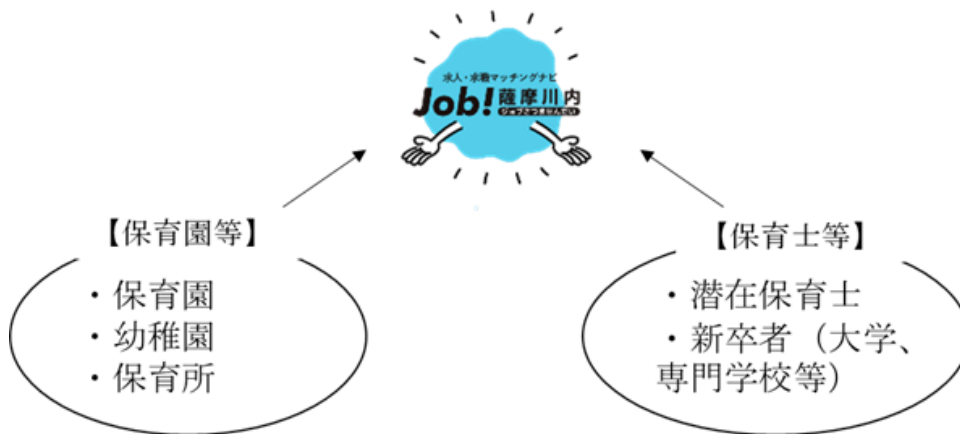
#### ① 人材マッチングの取組

⇒Job!薩摩川内上でマッチングを行う

#### ●Job!薩摩川内

ハローワークの求人情報の他、企業・事業所の会社概要や事業内容などを掲載し、市内企業の認知度向上につなげ、市内企業への就職希望者とのマッチングを図る求人マッチングサイト（ただし、保育士の求人募集は掲載なし）

- ・市内の保育園等に登録依頼
- ・潜在保育士及び新卒者への情報提供



⇒保育フェアの実施

(1)市内保育園等の人材確保と保育園等に就職を希望するUIターン者及び大学・専門学校等の学生へ、情報収集の場を提供するため説明会を実施。

(2)復職の方向けセミナー（研修）を同時開催（ハローワーク川内に委託？）

義や実技を通して保育現場への再就職を支援。

テーマ：薩摩川内市の保育について

保育所的一天

子どもの感染症について

離乳食・アレルギー対応等について

保育実技（「工作」「わらべうた」等）

上記保育フェア開催時

- ・託児所の設置

- ・保育サービスに関する心配事など相談できるブースを設ける。

保育サービスコンシェルジュを通し、就職先だけではなく、子どもの預け先の相談もできるようにする。

- ・来場者特典としてギフトカード等をつける。

② 相談体制の強化

⇒保育士・保育所支援センター事業の導入。

- ・保育士や保育園等の相談に対応する「保育就職支援センター」を設置。（SSプラザせんだい内等）

- ・利用者支援事業を活用した資格を保有する職員を配置。

③ 実態把握

⇒アンケート調査

(1) 組織ではなく保育士・幼稚園教諭個人に対するアンケート調査によるニーズの確認  
アンケート結果を保育士支援の取組に反映する。

実施方法：Web アンケート（選択方式）

ア （これから働く方向け）潜在保育士に対してのアンケート調査

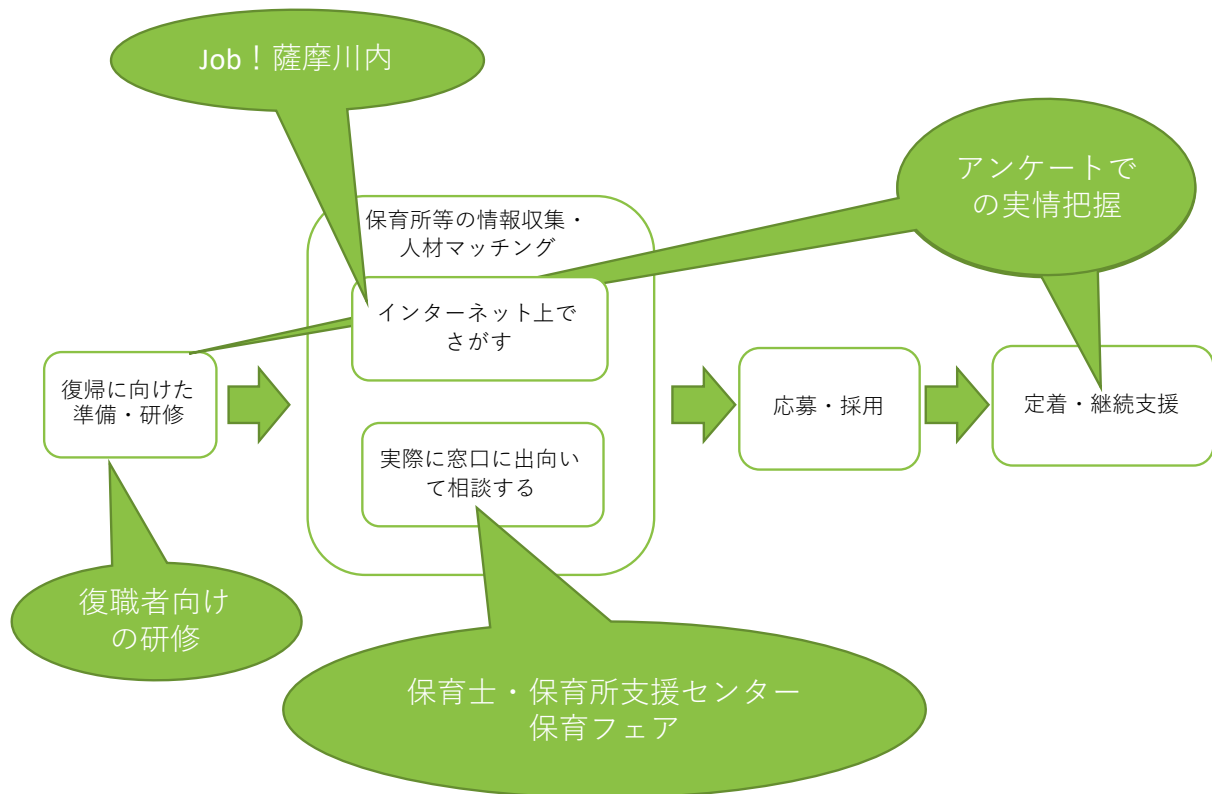
- ・年代
- ・居住地（町）
- ・保育士として勤務した期間（累計）
- ・離職の理由（給与、勤務時間、結婚、子育て、職場の人間関係・保護者関係）
- ・復職意向（復職したい>>したくない）  
→前問で復職したいを選択した場合復職理由（家計のため、子育てが完了したから、）
- ・就職で希望する条件（給与、勤務時間・日数、休暇取得状況）

イ（実際に現在働いている方向け）保育園の就労環境のアンケート調査

- ・年代
- ・現職場で勤務している期間(累計)
- ・保育士経験年数(累計)
- ・残業・持ち帰り仕事の有無
- ・ワークライフバランス※を保つ上で困っている点

※

- ・希望する福利厚生
- ・離職意向（離職したい>>したくない）



## 期待される効果

1・2の施策を行うことで保育士として働きたい人が気軽に情報を得ることができるようになり、また3の施策によって保育士の実態がより把握でき、実態に寄り添った支援をすることでさらなる人材確保につながる。その結果、人材が増え、保育サービスの質が向上するため、保育士も若い世代も本市へ移住・定住しやすくなり、市の魅力度向上につながると考えた。

# 3 班 自然を活用した地域振興策

## 目的

薩摩川内市は山海川に囲まれた自然豊かな街ではあるが、人口や店舗の減少など地域活力の低下が懸念される。この豊かな自然と既存の施設を活かし、幅広い年代が屋外で遊べる施設を作り、市の活性化を図る。

## 現状

薩摩川内市の現状について、班内で出された意見を基に3C分析を行い、本市を取り巻く環境を3つの視点に区分けした。

※3C分析とは、企業のマーケティングなどにおいて、顧客（Customer）、競合（Competitor）、自社（Company）の観点から市場環境を分析し、経営戦略上の課題を導く分析ツールのひとつ。

### ①Customer（市場・顧客）

- ・人口減少、少子高齢化が進行している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による屋外レジャーの需要が高まっている。
- ・若者や家族連れが遊べる場所の需要が高まっている。

### ②Competitors（競合）

- ・フォレストアドベンチャー奥日田（大分県日田市）
- ・北薩広域公園（さつま町）
- ・城山公園（霧島市）

### ③Company（薩摩川内市の強み、弱み）

#### 強み

- ・自然環境が豊か。
- ・運動施設が充実しているため、代表チーム等の合宿場所になっている。
- ・数多くの文化財がある。
- ・新幹線の停車駅になっている。
- ・南九州自動車道のICが複数あり、自家用車でのアクセスも良い。
- ・鹿児島県内で最大の面積を有している。
- ・こどもの医療費が高校まで無料。
- ・大型スーパーがある。
- ・大企業が多く、雇用が確保されている。

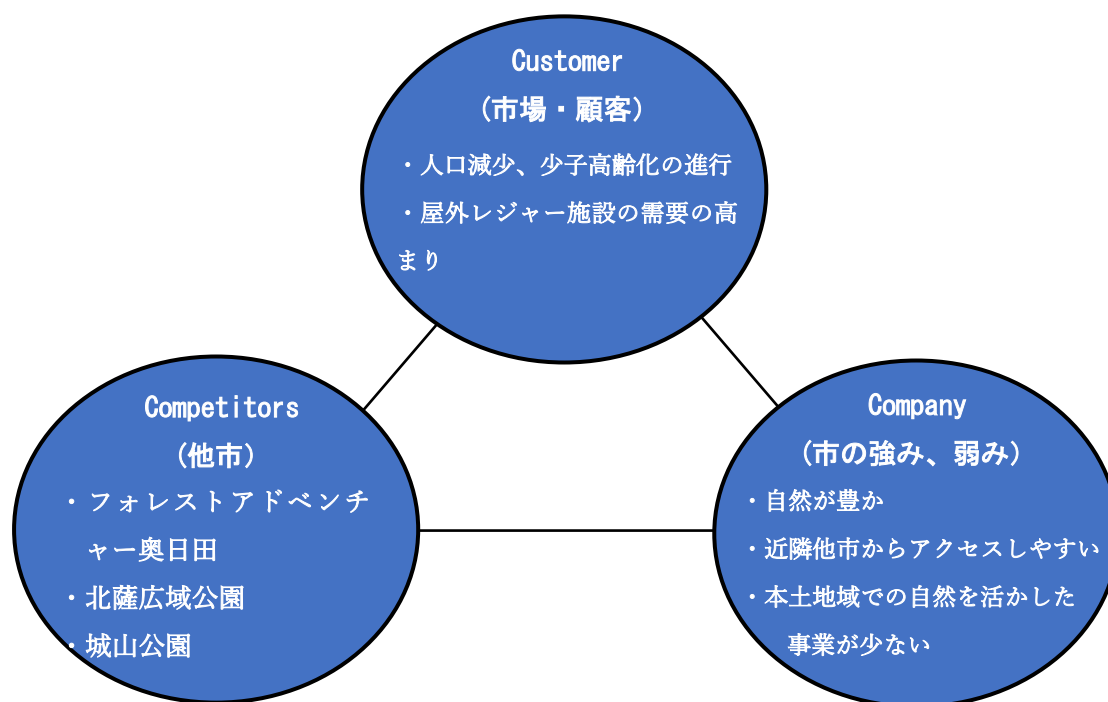
#### 弱み

- ・立ち寄って遊べる場所がない為、新幹線の通過点になっている。



- ・公共交通機関の利便性が低く、主に市内を移動するには自家用車が必要となる。
- ・駅周辺の商業施設が少ない。
- ・川内地域と支所地域での差が大きい。
- ・若者が楽しめる場所があまりない。
- ・本土内での自然を利用したイベントが少ない。
- ・雨天時に立ち寄って遊べるところがない。
- ・甌島では自然を活かしたイベントが行われているが、アクセスするための費用、時間がかかり、天候にも左右される。(天候次第では、高速船、フェリーが出ないため計画が立てづらい。)

### 【3C分析簡略図】



3C分析を行った結果、薩摩川内市の現状として、上記の項目があげられたが、その中で本土地域での自然を活かした事業が少ないことに着目し、それを改善することが集客につながると考えた。

そこで、豊かな自然環境が整っており、市の指定管理施設でもある「てらやまいこいの広場」の施設の充実について検討を行う事にした。

指定管理者である公益財団法人薩摩川内市民まちづくり公社の職員にヒアリングを行ったところ、以下の現状があげられた。

寺山施設課 せんだい宇宙館

強み

- ・年間を通して花が絶えないよう植栽している。
- ・公園内の全ての樹木の種類が分かるようにネームプレートが設置されている

- ・遊具や食事処がある。
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、外出の需要が高まり、年間利用者数が増加した。
- ・せんだい宇宙館があり天体観測ができる。

#### 弱み

- ・利用開始から40年以上経過しており、設備の老朽化が進行している。
- ・特に水道管の老朽化が顕著であり、水漏れが頻発している。
- ・水道管は敷地全体に連結しているため、トラブル発生時広範囲に影響を及ぼすリスクがある。
- ・老朽化した遊具等の撤去は可能だが、新設が難しい。
- ・設備補修整備計画はなく、事後対応となっている。
- ・広場周辺の木々が生い茂り、眺望が悪くなっている。
- ・公共の場であるため、市からの働きかけがないと、特定のイベントを催しづらい。
- ・寺山までの公共交通機関がないため、アクセスには自家用車が必要になる。

## 視察内容

現状改善のため、てらやまいこいの広場の施設の充実という観点から、施設内の自然豊かな環境を活かしたレジャー施設が必要であると考えた。先進地の候補として、①自然を活かしたレジャー事業が行われており、②事業の開始や運営について自治体との関わりがある施設を探したところ、大分県日田市の「フォレストアドベンチャー奥日田」が挙げられた。施設の運営を行っている事業者及び施設が所在する日田市の観光課職員の方にヒアリングを行った。

### (1) 株式会社ファンカンパニー

#### ①立地の経緯に至るまでの経緯（事業の発端等）

若い世代が帰省した際に日田で遊べるようなところを作り、また、隣接している市指定管理施設（鯛生金山）の集客が年々下降傾向にあったため、てこ入れをしたいという思いから開設に至った。屋外でのアクティビティ施設であるためインフラ整備が不要であること等、初期投資が少ないことも開設につながった。

施設の開設に際して、地元住民の有志を募って木の伐採作業などを行った。地元柄、林業に携わる人も多くスムーズに進めることができた。

#### ②立地の選定条件

立地の選定条件は特にないが、近くに市指定管理施設があるため、来客に相乗効果が生まれていると考えている。また、受付の場所は市の土地であり、毎年賃借料を支払っている。

#### ③自治体、その他民間企業との関連事業

駅前で行われたイベントに出店した際は、市から補助を受けてモバイルコースを設置した。また、修学旅行の受け入れも行っている。

その他民間企業と連携して、宿泊施設とのパック料金の販売やバスツアーを企画している。また、

人気漫画作品とのコラボレーションを積極的に行い、集客のためPRしている。

#### ④年間利用者数

令和3年度の年間利用者数は4,000人ほど。新型コロナウイルス感染症や水害の影響もあり、想定していたよりも少なかった。客層としては、小学生から60代まで幅広い年代の利用者が訪れるが、20代～30代が多い印象がある。難易度の低い、子供向けのコース（キャノピーコース）を作ればさらに集客を見込める。

#### ⑤設備の耐久年数、修繕計画

修繕計画は現状では特にはない。部品等についてはその都度交換している。専属の人間が行う年次点検に加え、マニュアルを基にウィークリーチェック、マンスリーチェックを行っている。木と木をつなぐワイヤーケーブルが切断・交換になる事例はほぼなく、安全性は高い。足場となる木の板については、木の成長による太さの変化に応じて修繕する場合がある。

#### ⑥施設周辺の店舗の有無、傾向

施設の特長上、都市部から離れたところに立地しているため周辺に店舗はあまりない。自然を求めて訪れる人向けの施設であることから、街中に作っても需要とかみ合わない。他のフォレストアドベンチャーも同様であり、アクセス方法として自家用車は必須である。

#### ⑦「フォレストアドベンチャー奥日田」の強み

斜面を生かした高さのあるアスレチックや、長いジップスライドが強みと考えている。また、木を伐採する際にもみじは残し、秋には紅葉を楽しめるように工夫をした。

市の指定管理施設が隣接しているため、フォレストアドベンチャーだけでなく他施設でも楽しむことができる。

#### ⑧「フォレストアドベンチャー奥日田」の課題

令和2年4月に開設したため、当初から新型コロナウイルス感染症の影響を受け通常時の来客数などが把握できていない。基準が分からないため、今後どのように集客していくかが課題である。また、繁忙期にはアルバイトを雇って運営しているが人員の少なさもあり、人材確保に苦労している。

#### ⑨当初の目的とのギャップ

コロナの時期なのではないと思うが、アウトドア需要も高まっているためもう少し集客があることを予想していた。また、近くにキャンプ場もあり、相乗効果も狙っていたが、客層が異なるため、あまり効果は実感できていない。

リピーターが多いことも意外だった。

### (2) 日田市役所 商工観光部 観光課 観光企画係

#### ①日田市とフォレストアドベンチャー奥日田の関わり

フォレストアドベンチャー奥日田は民間企業がフランチャイズとして誘致し運営を行っている施設であり、自治体との関わりは施設開設時の補助金や新型コロナウイルス感染症による休業補償及び雇用に関する給付がほとんどである。民間企業が運営している施設のため、経済効果を具体的な数値で把握することは困難だが、隣接する市の指定管理施設（金山、博物館、道の駅）の来客数が増加するなど、誘客効果は見られる。また、アルバイトの雇用など現地での雇用にもつながっている。

駅前で行うイベントなど市が主催・運営する催し等に出店を依頼することもある。

## ②観光面で抱える今後の課題

日田市の中心である日田駅からそれぞれの観光地へ向かう二次交通が不足している。日田市内の移動手段として自家用車が必須であり、交通手段の整備が課題である。特に合併前の町村地域へのアクセスが悪いことも合わせて、観光事業への力の入れ方を模索している。

## 施策の方向性

本市は、自然に恵まれ、南九州自動車道の IC が複数あり、自家用車でアクセスが良い場所に位置しているが、本市本土内に自然を活用した、幅広い年代が集い楽しめる場所は多くない。施設を一から立ち上げるとなると膨大なコストが必要となることが予想されるため、現在市の指定管理施設であり、豊かな自然環境が整っている「てらやまいこいの広場」へ下記の新たな付加価値の付与（施設整備）を提言する。

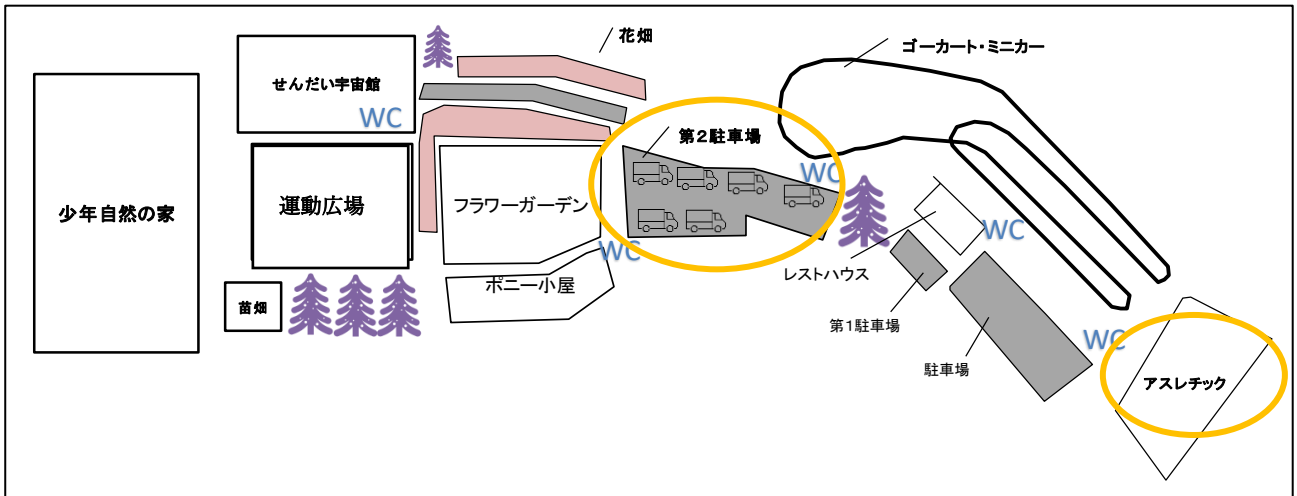
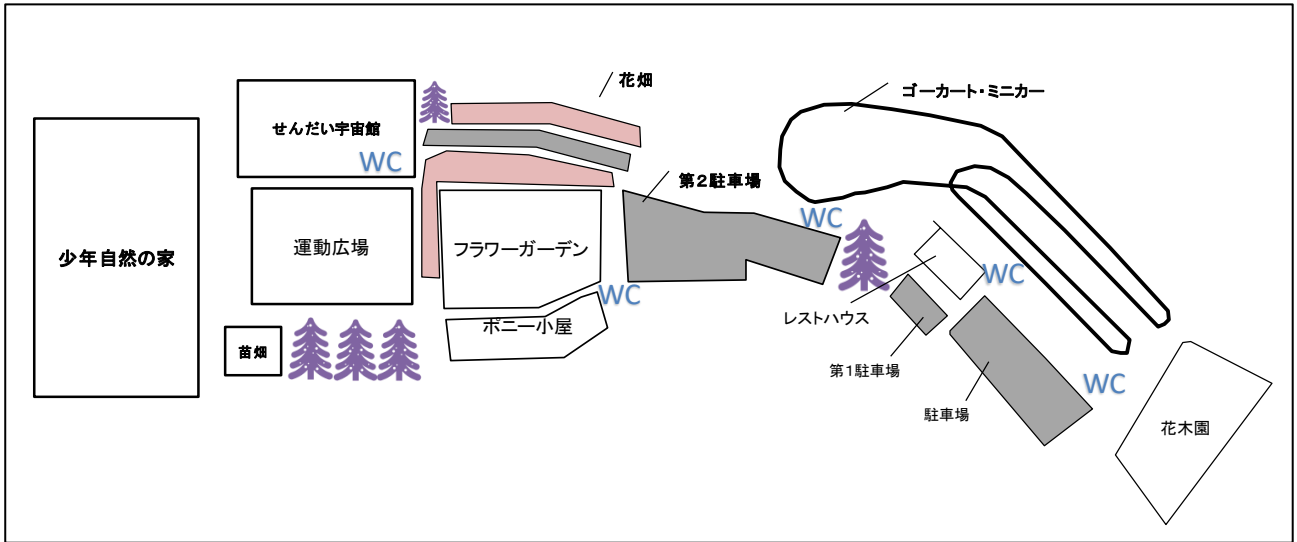
### ①自然を活かしたアスレチックの創設

本市内には、遊具が設置してある公園等が多いが、自然豊かな環境を活かしたレジャー施設はあまり見受けられない。先進地視察先とした「フォレストアドベンチャー奥日田」に設置してあるような、木材を活用したアスレチックや、ジップラインを創設する。創設したアスレチックを活用して宿泊学習や修学旅行の受け入れ、イベント等を行うことで、市内外からの新たな来訪者の獲得を目指す。

### ②駐車場へのキッチンカーの誘致

現在、広場内に食事処が 1カ所のみである。食事面での選択肢を増やすためキッチンカーを誘致できるよう、駐車場を整備する。食事の時間で広場を離れる必要がなくなり、1日を通して遊べる場とする。

「てらやまいこいの広場」施設整備前



「てらやまいこいの広場」施設整備後

## 期待される効果

### ①経済効果

アスレチックを創設することで、これらを目的に本市外からの来訪者の増加が見込まれる。また、周辺地域の飲食店や宿泊施設の利用者が増加することによって経済の活性化につながる。さらに、キッチンカーを出店することにより、キッチンカーでの売上だけでなく、本店の認知・売上増加にも期待できる。

## ②既存施設への誘客効果

上記施設整備に伴い、来訪者が増加することで、てらやまいこいの広場内の既設の指定管理施設である「せんだい宇宙館」等の利用者増の相乗効果が見込まれる。

先進地視察先のフォレストアドベンチャー奥日田においても、隣接している指定管理施設（鯛生金山・博物館など）の利用者が増加しているため、同様の効果が期待できる。

## ③公園全体の環境改善

「てらやまいこいの広場」に新規設備等を整備することで、供用開始から40年以上経過し老朽化した既存の附帯設備等も整備され、利用者の満足度の向上が見込まれる。また、老朽化による潜在化したリスクの回避、安定運用への寄与が見込まれる。加えて、新設と既設の整備を同時に行うことで、整備費用の削減も見込める。

自然環境に恵まれた「てらやまいこいの広場」の施設整備を行うことで、本市への来訪者の増加、地域経済の活性化が図られ、薩摩川内市の魅力向上に寄与するものとする。

# 4 班 住環境の整備

## 目的

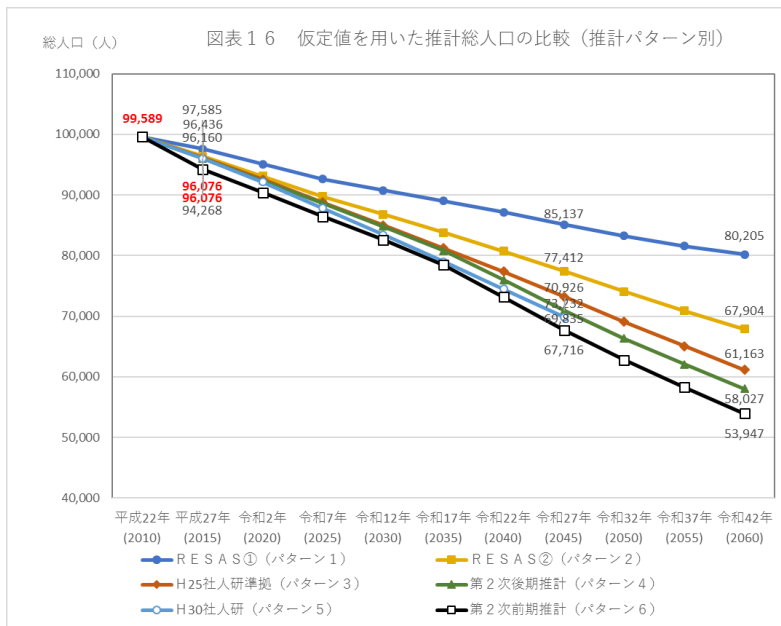
薩摩川内市は、人口の流出が続いており、地域経済やコミュニティを支える担い手が不足し、地域の活力が低下していくことが懸念される。移住しやすいまちづくりを計画し、定住者の増加により期待される、地域の活性化へ繋げることを目的とする。

## 現状

### (1) はじめに

日本の総人口は、平成 20 年（2008 年）の 1 億 2800 万人をピークに減少しており、令和 32 年（2050 年）には 1 億人を割るものと推計されている。同時に、少子高齢化も進み、生産年齢人口も減少することが予想される。人口減少、特に生産年齢人口の減少は、労働力や地域コミュニティの担い手不足、社会保障費や税を負担する世代の減少に影響を及ぼすため、薩摩川内市や鹿児島県でも様々な移住定住を促進するための事業に取り組んでいる。

本市が平成 27 年（2015 年）10 月に策定した「薩摩川内市人口ビジョン」においては、長期的展望として、令和 42 年（2060 年）の人口規模を 68,890 人と設定し、必要な施策を推進しているが、出生数の低下や社会減を鑑みるにその目標の達成は容易ではない。本市の人口減少を緩やかにし、将来的に一定規模の人口を維持していくためには、転出者の U ターンに加え、都市部などからの I ターン、即ち移住者の増加を図る対策を講じるが必要不可欠である。



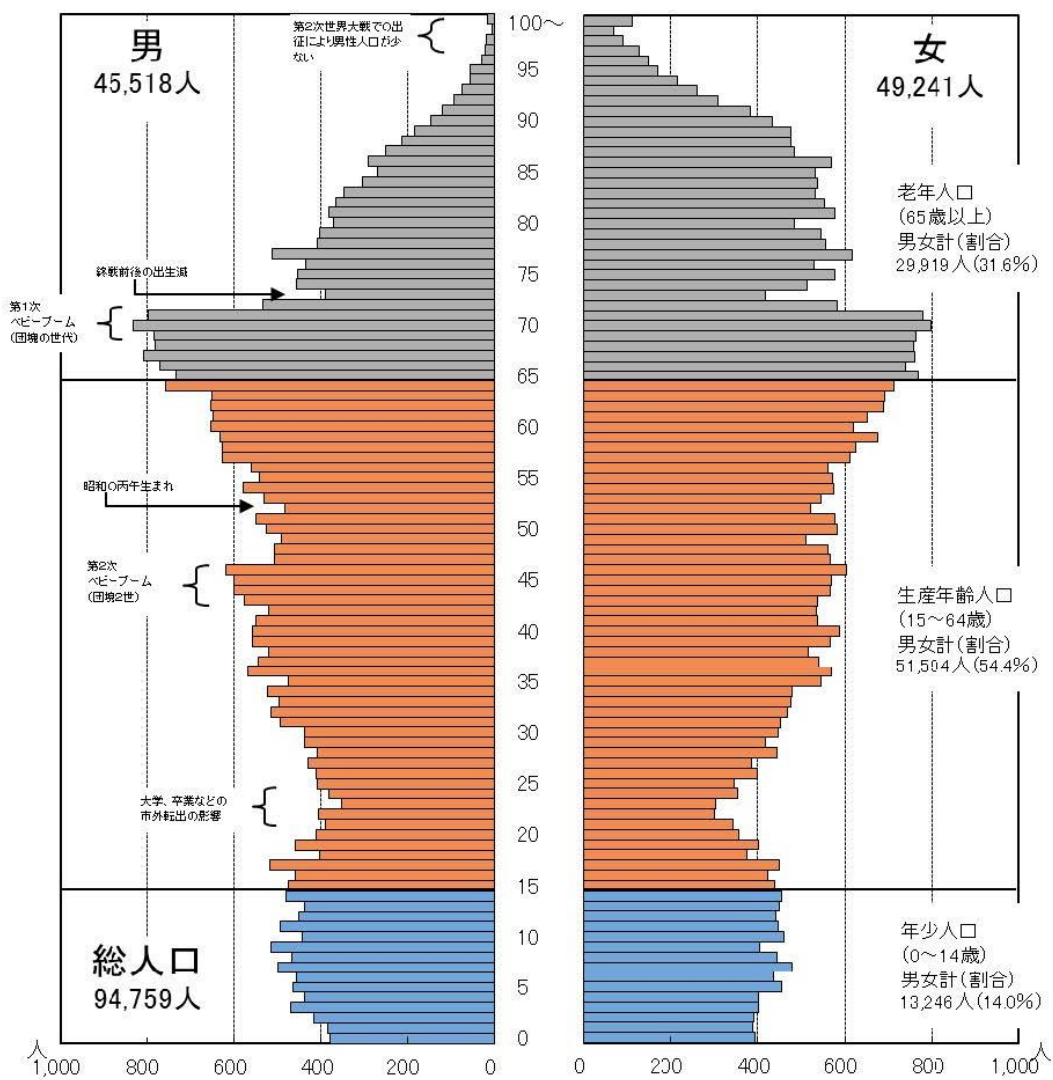
出典：薩摩川内市人口ビジョン

(2) 薩摩川内市における人口の現状と課題

(ア) 年齢別人口および人口の推移

日本の人口ピラミッド同様、本市の平成 31 年 4 月 1 日現在の人口構成は、団塊の世代と団塊 2 世の年齢の 2 つの大きな膨らみがある「ひょうたん型」をしている。特徴として、20～24 歳の人口が極端に少なく、進学や就職等で流出しているが、20 歳代後半から回復しており子育て世代の層が比較的厚い。

本市の人口は、昭和 60 年の 108,105 人をピークに減少傾向に転じ、平成 22 年には 100,000 人を割り、現在約 92,000 人を割り込もうとしている。65 歳未満は総人口と同様の動きを示しているが、65 歳以上については、昭和 30 年以降一貫して増加している。



人口ピラミッド (平成 31 年 4 月 1 日現在) 出典: 住民基本台帳

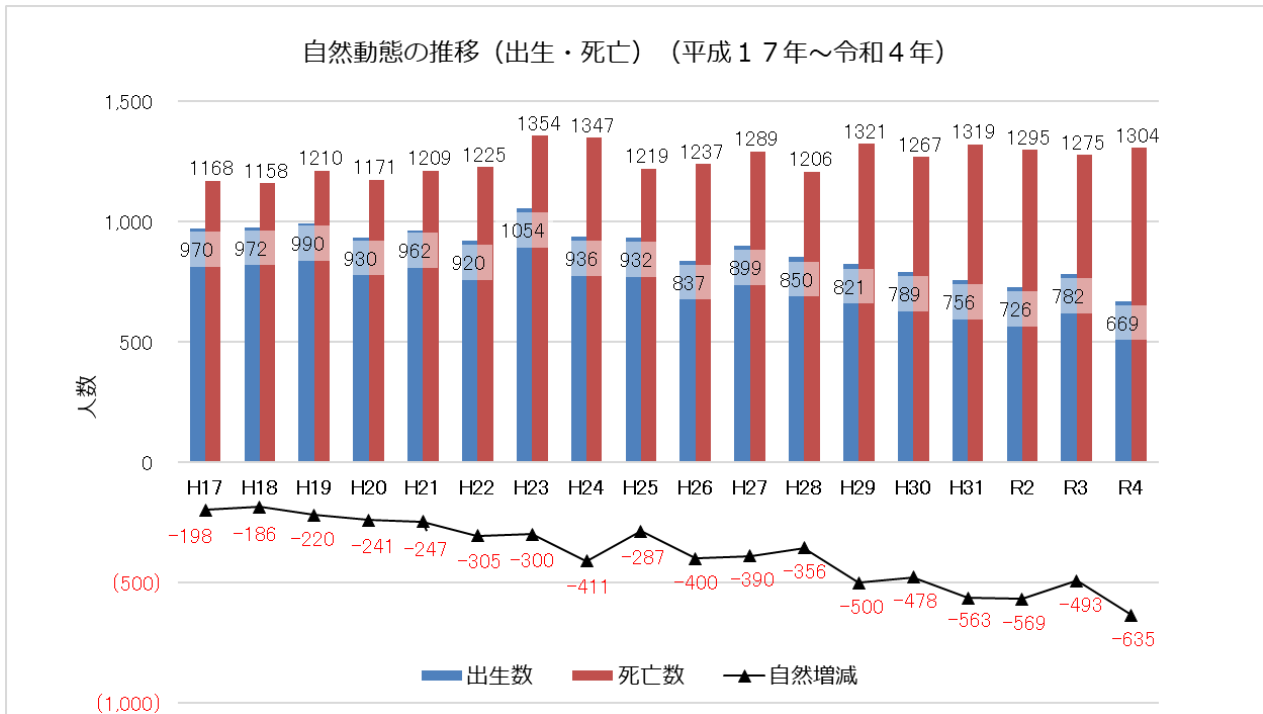




(イ) 人口動態（自然動態・社会動態）の推移

a) 自然動態（出生率と死亡者数）の推移

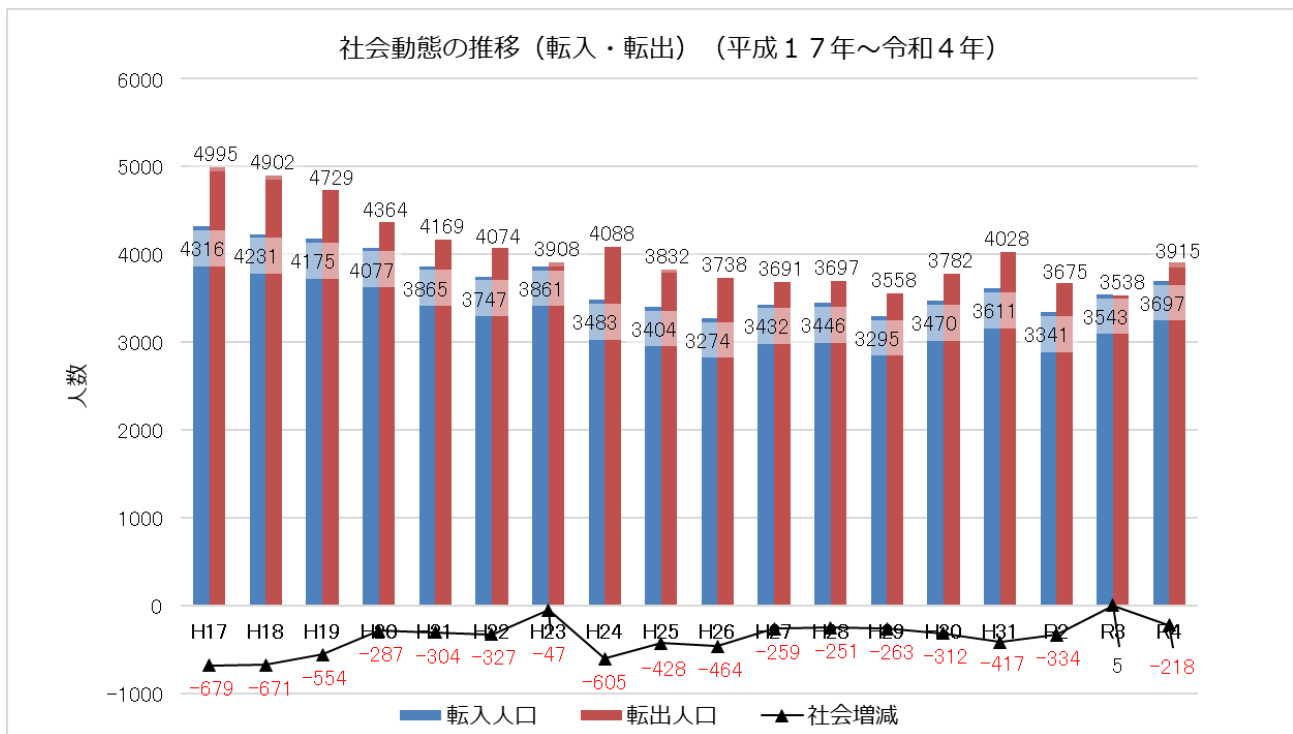
平成 17 年から一貫して、死亡者数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。徐々にその差が大きくなっており、人口減少が進んでいる。



b) 社会動態（転入者数と転出者数）の推移

転出者数が転入者数を上回る社会減（転出超過）の状態が続いている。なお、転出超過数は

平成 27 年以降では 200～400 人程度の幅に収まっており、変動幅は概ね横ばいである。令和 3 年は合併後をはじめ転入者数が転出者数を上回った。



毎月推計人口をもとに作成

### (3) 取り組みの経過

上記の現状から推計や人口減少対策、とりわけ転出超過の状況から、移住定住対策が喫緊の課題であると考え、次の通り調査や検討を行った。

#### (ア) 行政視察

令和 4 年 10 月 24 日に長崎県五島市を視察した。

(面積：約 420 km<sup>2</sup>、人口：34,391 人、高齢化率：40.83%)

五島市は、地域の魅力と行政主体の積極的かつ先進的な取り組みによって、令和元年と令和 2 年の 2 年連続社会増を達成している。移住希望者を逃がさない仕組みで年間 200 人程度の移住者数を維持。

**【情報発信】** 移住関心層がキャッチしやすい情報発信と、ワーケーションなどのコンテンツ提供・プロモーション

**【仕事】** ハローワークや地域協働課と地元企業などとの連携による仕事の紹介、面接旅費の補助

**【住居】** 無料の短期滞在住宅による移住体験や家探し、まちづくり協議会や地域のキーマンとの連携による空家バンクへの登録推進、改修費用の補助

**【支援制度】**

- ・ 移住希望者定住支援補助金：面接旅費を6万円補助（40歳未満）
- ・ 子育て世帯等移住促進補助金：引越し費用を15万円
- ・ 補助奨学金返還支援助成金：Uターン者に36万円／年を10年間（35歳未満）
- ・ 短期滞在住宅：3ヶ月無料でお試し移住（現在は希望者が多く家探しなど移住を決めた方を優先）  
※使わなくなった県の職員住宅を利用して15戸（オンラインの移住相談を受けた人を条件にし、目的外での利用を避ける工夫）
- ・ 空家活用促進事業補助金：空家改修費の半額補助
- ・ 雇用機会拡充支援事業補助金：事業費の4分の3を助成
- ・ 移住支援金：二人以上の世帯へ100万円補助（東京圏からの移住者）

【その他】移住対策は地域協働課（職員3名、会計年度職員3名）で対応

定期開催されるオンライン相談会をはじめとして、移住前後の支援が厚い

奨学金返還制度でUターン者を優遇したり、HPにもUターン者専用サイトを開設



五島市関わった移住者

(イ) 島守株式会社の取り組みや課題（代表取締役 山下賢太さんへの聞き取り）

【取り組み】空家・移住定住・人事育成の相談窓口

【課題】

- ・ 現在の移住の窓口には、島の物件、住宅に詳しい人がおらず、移住希望者がたらいまわしになっている（空家バンクを紹介するだけ）。
- ・ 空家バンクの登録件数が少ない。空家の登録を頼みに行く際に、市の職員が同行するだけで信頼が上がり、スムーズに登録に進むように感じるため、協力できないか。
- ・ 移住の準備住宅のようなものがない。仕事探しや家探しができる拠点があればいい。既存の

建物を有効活用し、自由度の高い使い方ができるようにしてほしい。

- ・引っ越した後の補助が多い。引っ越しのハードルを下げた方が良い。

**【その他】**

- ・仕事と住まいの両方がそろふ必要がある。
- ・1～2週間の島暮らしからスタートし、現地の人との関係性を作ることが移住へとつながる。

(ウ) 移住者への聞き取り

**【仕事】**

- ・ハローワークで介護職以外の仕事が見つけれず、人が繋ぐ以外の方法がない。

**【住居】**

- ・住居情報をネットで検索できない。
- ・問い合わせた際にたらいまわしにされ、家を見つけられなかった。埒が明かず現地に來たらすぐに見つかった。
- ・家が決まった後でのトラブルが多発し、当初の予定以上の来島が必要となった。
- ・市営住宅への入居も、市民で保証人をたてるのが難しい。
- ・移住体験住宅はあるが、移住体験以外での利用やシェアハウス形式、家具・家電がないなど、利用がしづらい（移住体験に家具・家電付き住居は必須）。
- ・移住体験住宅の料金設定が宿泊施設に泊まっているのと変わらず、生活している実感がない。
- ・移住体験住宅がない（本土側）。

**【支援制度】**

- ・補助など全分野（役所全体）を網羅した情報が拾えない。HPにまとめられていてほしい。

**【その他】**

- ・甑島側に窓口がない、担当者がいないことでの移住の難しさがあつた（紹介だけでもしてほしい）。
- ・移住までのトラブルが多く、仕事が決まっていなければ移住をあきらめていた。
- ・移住検討～移住～居住～出産～子育ての通したフォロー体制が欲しい。
- ・島の物価がとんでもなく高いイメージだったが、島で生活することで、モノの単価など生活費もイメージできた。
- ・都会からの移住にはかなりの費用がかかる。
- ・困りごとを聞いてくれるような窓口がない、住んでからもあつてほしい。
- ・人とつながれるような取り組みがほしい。

(エ) トライアルステイ参加者への聞き取り

令和4年10月11～16日に甑島で行われた、短期トライアルステイに参加したモニター2組（夫婦1組、単身1人）に聞き取りを行った。応募者が多く、応募期間の終了を待たずに募集を締め切つた。夫婦は4月移住に向けて準備中、もう一人も移住検討中（家族の説得中）とのこと。

**【仕事】**

- ・現地で探す。
- ・甑島でもできる仕事を持っているが、できたら現地でも少し働きたい。

## 【住居】

- ・家さえあればすぐにでも移住したい。

## 【その他】

- ・いきなり移住はハードルが高いので来てよかった。
- ・これまで（観光）とはちがった生活、島民との関わりができてよかった。
- ・こんなにウェルカムだと思わなかった。
- ・先輩移住者や島の人が、良いことばかりではなく、悪いことも話してくれたことが信頼できるし、受け入れた上で移住できる。

### (ウ) 本市の施策

#### a) 本市における支援制度、移住・定住施策

- ・ **定住住宅取得補助金**：住宅を新築または購入された転入者に補助金を支給
  - ・ **定住住宅リフォーム補助**：住宅をリフォームし、5年以上定住する者に対して、補助金を支給
  - ・ **空家バンク情報登録制度**：市内にある空家を登録し、転入予定の方に対して、空家の賃貸・購入を媒介するもの
  - ・ **空家バンク成約奨励金**：空家バンク制度を通して成約された所有者と利用者（市外からの転入者）の両方に奨励金を支給
  - ・ **移住体験住宅（体験型）**：田舎暮らしを希望されている方に、一定期間市が設置する「移住体験住宅」で実際に田舎暮らしを体験し、薩摩川内市の自然や人情に触れることで移住計画者を応援しようとするもの。（現在は甕地域のみ 里町：4件、下甕：1件）※移住体験住宅は、原則として6泊以上で利用可（最大30泊まで）
  - ・ **UIJ ターン者家賃等補助金**：中小企業等の人材確保と UIJ ターン者の地元就労を支援するため、市内中小企業等に就職した UIJ ターン者の対し、家賃の一部を補助等
  - ・ **結婚新生活支援補助金**：結婚に伴う新生活のスタートに係る新居住居費及び引っ越し費用を助成
  - ・ **奨学金返還支援制度**：大学等や市内の専門学校を卒業した方が市内の中小企業やそれに準ずると認める企業・団体に就職した場合に、借りていた奨学金の額の返還を支援
  - ・ **通学定期券等購入費補助金**：市内に住む中学・高校生が、市内の中学校・高校へ公共交通機関等を利用して通学する際の定期券購入代またはスクールバス代を助成
  - ・ **新幹線通勤定期購入補助**：薩摩川内市から新幹線で通勤する転入者に最大3年間補助金を支給
- b) 移住定住に関する窓口 薩摩川内市定住支援センター（企画政策課内）

### (カ) グループ内での検討

行政視察、関係各所への聞き取り、移住者や移住検討者からのニーズも踏まえグループ内で検討を行った。

## 【現状と課題】

人口減少、少子高齢化共に全国共通の課題であり、移住者の取り合いになっている中、薩摩川内市へ来てみたい人や実際に来た人を逃がさない仕組みが最も重要である。本市ではこれまでも「移住定住促進」に係る施策に取り組んできているところであるが、現状では、特に住環境の面において、薩摩川内市へ移住を希望してくれている人たちが受け入れることができている課題も浮き

彫りになった。

このことから、移住準備の際に家がないこと、現地に担当者がいないことで生じるトラブルの解消と、移住のハードルを下げることに力を入れることによって、移住者・移住後の定住への満足度向上へつなげたい。

#### ① 家がないことで生じるトラブルの解消についての検討

移住の問い合わせに対し、空家の賃貸物件が極めて少ないことが課題である一方、薩摩川内市の空家率は高く、少子高齢化が進む当市にあっては、今後も空家は増え続けることが予想される。つまり、空家の需要はあるが、供給できる空家が少なく、移住へのきっかけとなる空家賃貸物件の登録が極めて少ないことを示唆している。

平成 29 年の調査では、薩摩川内市の空家は約 4,577 戸で、空家率は 33%となっている。多くの地域で空家が増加していることについて、問題意識は持っているが、手つかずの空家が多い。少子高齢化の進む当市にあっては、今後も急激に空家が増えることが予想され、防災・防犯・安全・環境・景観保全等の面からも、空家等を活用した移住定住の促進が掲げられており、空家等を活用した、移住・定住促進についての相談体制を充実させ、所有者と利用者がより良い選択をできるようにサポートする、とされている（薩摩川内市空家等対策計画）。

## 空家の件数（H29年度調査結果）

調査件数：13,757棟

- ・本土地域：6,778棟（水道の閉栓・廃止データ、ゼンリン空家情報等）
- ・甌島地域：6,979棟（ゼンリン住宅地図掲載の全棟）

### 【空家棟数】

地区	棟数	地区	棟数
川内	2,399棟	里	98棟
樋脇	415棟	上甌	300棟
入来	310棟	下甌	358棟
東郷	335棟	鹿島	128棟
祁答院	234棟	計	4,577棟

- ・管理が行き届いていないが、比較的小規模な修繕で利用可能 2,524棟
- ・管理に特段問題がなく、現状のまま利用可能 1,431棟

移住者からの聞き取りからもわかるが、空家バンクに登録されている物件が少ないだけで、現地に来たら住む場所は見つかっている。空家の管理者にヒアリングすると、「持ち主と管理者が違っているために空家バンクへの登録に繋がらない」「小規模な修繕が必要であるため自分で修繕するのであれば貸しても良い」「知らない人へ貸すことへの抵抗がある」という声が多数ある。そのため、修繕費用を補助すること、地域とつながりをつくったり、仕事や家を探す期間、滞在できる住居を整えることで、家がないこと、空家が多いことは改善に向かうと考えられる。

空家を活用した移住をさらに推進するためには、前述の「供給（空家の掘り起こし+使える状態へ）を増やす」ことに加え、「需要（薩摩川内市を選ぶ人）を増やす」ことを充実させる必要がある。「需要を増やす」ことについては、後述の2項目で検討する。

## ② 現地に担当者がいないことで生じるトラブルの解消についての検討

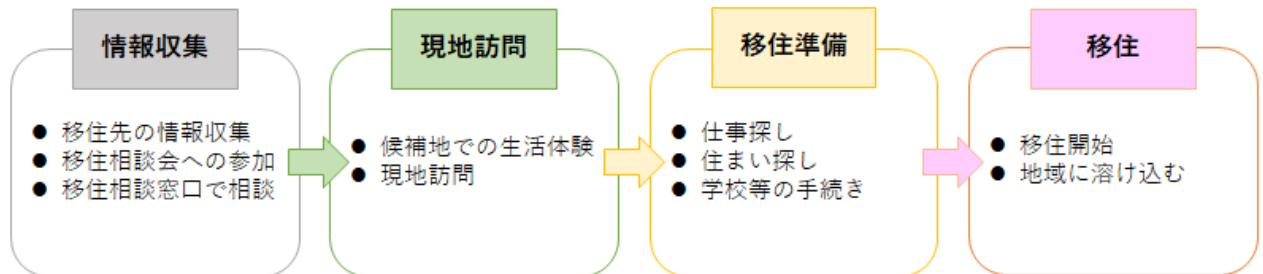
五島市では、移住前後で密なやり取りが行われているため、自然と移住後のフォローまでできているようであった。移住を検討した時点から不安点を解消でき、移住後も相談窓口があるため、精神的な不安が解消されていると思われる。

甌島地域にも、役所内で最低限の案内ができる、もしくは移定住協議会やその他団体と連携し、そちらに繋ぐ仕組みづくりが必要だと考える。移住を支援できる人を置くことが理想だが、甌島地域に窓口があるだけで、どこに問い合わせたら良いかわからずたらいまわしにされている状態は回避できる。担当が関係するところを紹介するだけでもスタートとしては十分なのではないか。将来的に移住支援員として専従できる職員が配置できれば、現時点の本市の取り組みとしては弱いソフト面の充実や、空家物件の掘り起こしにまでつなげることも可能である。

## ③ 移住へのハードルを下げることについての検討

本市でも様々な施策・支援制度があるが、住んでからのものが多く、移住するまでの過程への支援が弱い。引っ越しまでの支援に力を入れることで、引っ越しのハードルを下げることにつながるのではないかと。

また、一般的に、移住を開始するまでのステップとして、①移住先の情報収集、②移住候補地での生活体験、③仕事の決定、④住まいの決定、⑤移住開始というものが想定される。移住決定への大きなポイントとなるのは、自分の目で、その地域でどんな生活ができるか、具体的にイメージしながら確認できる②移住候補地での生活体験であり、それに伴い、お試し住宅の利用なども必要になってくる。



現在のお試し住宅は、造りや料金形態ともに宿泊施設を利用する形式に近く、島に住んでからのイメージが湧きづらい。より移住後の生活に近い滞在ができる形態を整え、移住への後押しとなる仕組みが必要である。

移住体験住宅（現在は甌地域のみ 里町：5件、下甌：2件）

【本土地域】

なし

【甌島】

- ・花美咲（里）
- ・どくだみ荘（里）
- ・VILLA 射手岬（里）※新
- ・ツバ・キ（里）※新
- ・きまま館（下甌）

————企画政策課と契約を結んでいない移住体験住宅————

- ・ST ウィンターズ（里）
- ・青瀬地区コミ（下甌）



(利用料金)

移住体験住宅は、原則として6泊以上で利用可（最大30泊まで）

【料金表】※光熱水費込み

泊数	加算額	利用料金	泊数	加算額	利用料金	泊数	加算額	利用料金
6泊	基本料金	12,000	15泊	1,500	29,000	24泊	1,500	42,500
7泊	2,000	14,000	16泊	1,500	30,500	25泊	1,500	44,000
8泊	2,000	16,000	17泊	1,500	32,000	26泊	1,500	45,500
9泊	2,000	18,000	18泊	1,500	33,500	27泊	1,500	47,000
10泊	2,000	20,000	19泊	1,500	35,000	28泊	1,000	48,000
11泊	2,000	22,000	20泊	1,500	36,500	29泊	1,000	49,000
12泊	2,000	24,000	21泊	1,500	38,000	30泊	1,000	50,000
13泊	2,000	26,000	22泊	1,500	39,500			
14泊	1,500	27,500	23泊	1,500	41,000			

(移住体験住宅の利用状況)

現在市と連携している移住体験住宅は、既存の宿泊施設を利用したものであるため、一般の（移住目的とは違った）利用者が多い。また、家具・家電が整備されていなかったり、シェアハウス形式のものも多く、移住希望者による移住体験住宅としての利用が優先される形にはなっていない。しかし、専用の住宅整備には多くの予算が必要であることに加え、現状では利用希望者もそれほど多くないため、専用の住宅整備には至っていない。

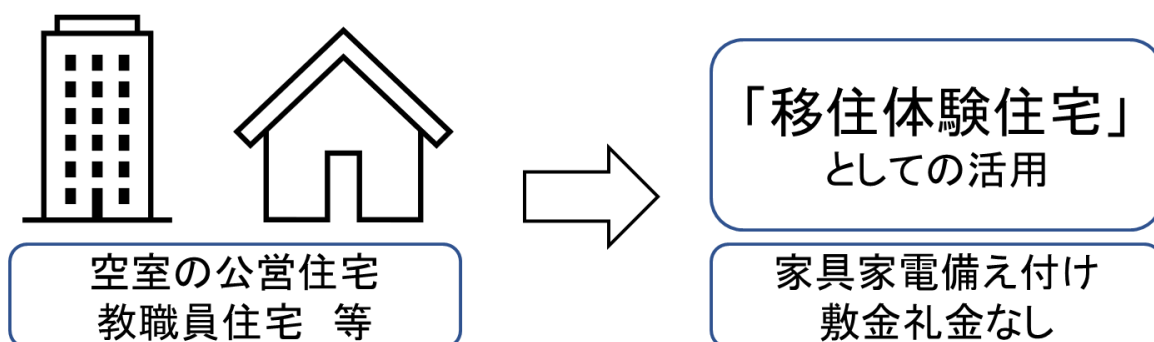
## 施策の方向性

以上の現状を踏まえ、以下の施策を提言する。

### 1 「公営住宅」を活用した移住体験住宅の拡充

本市においても、移住体験住宅の整備は行われているが、その活用は十分にできていない現状である。他方、甌島を含む薩摩川内市の各地域には、空家は相当数存在し、公営住宅にも空室が一定数ある状況であると思われる。特に甌島においては、休校等に伴い教職員住宅が使われていない地域も存在する。

そこで、これらの住宅を移住体験住宅として、移住希望者が利用できるよう、家具家電付き、また敷金礼金等なしの条件にて整備することを提案する。



### 移住体験・家探しのための短期滞在住宅としての活用

実際、移住者等からの聞き取りからも、移住をするにあたり、移住候補地での生活体験をすることは必須の要件であるように思われる。あるいは移住が決まった方にとっては、家探しを行うための期間としての活用が見込まれる。そのため、移住体験をはじめとする短期滞在のための住宅確保するため、公営住宅を活用する。現地に住みながら住居を探すことができれば、空家バンクに登録されていないような空家を見つけることも十分に可能であり、空家の効率的な活用にもつながることも期待できる。

### 2 移住体験住宅利用料金形態の変更

現在、薩摩川内市で実施されている移住体験住宅は、民泊施設を間借りするような形で行われているが、移住者からは、宿泊施設に泊まっていて生活の実感がないとの指摘がされている。これらは、「利用1日につき」、「一泊につき」などのパッケージ的な単位で料金が設定されていることが要因であるが、この点について、移住者が実際に薩摩川内市で生活した際に係る費用を体験するため、1泊あたりの金額ではなく、必要な生活経費を負担する方法を提案する。

具体的には、住居に関する費用は、請求しないこととし、それ以外の食費、光熱水費、交通費その他諸経費について、移住希望者の実費として負担をしてもらうこととする。

【現在の移住体験住宅費用】

泊数	加算額	利用料金
6泊	基本料金	12,000
7泊	2,000	14,000
8泊	2,000	16,000
9泊	2,000	18,000
10泊	2,000	20,000
11泊	2,000	22,000
12泊	2,000	24,000
13泊	2,000	26,000
14泊	1,500	27,500

泊数	加算額	利用料金
15泊	1,500	29,000
16泊	1,500	30,500
17泊	1,500	32,000
18泊	1,500	33,500
19泊	1,500	35,000
20泊	1,500	36,500
21泊	1,500	38,000
22泊	1,500	39,500
23泊	1,500	41,000

泊数	加算額	利用料金
24泊	1,500	42,500
25泊	1,500	44,000
26泊	1,500	45,500
27泊	1,500	47,000
28泊	1,000	48,000
29泊	1,000	49,000
30泊	1,000	50,000

【実費負担のイメージ】

例) 6泊7日の場合 家族3人の場合

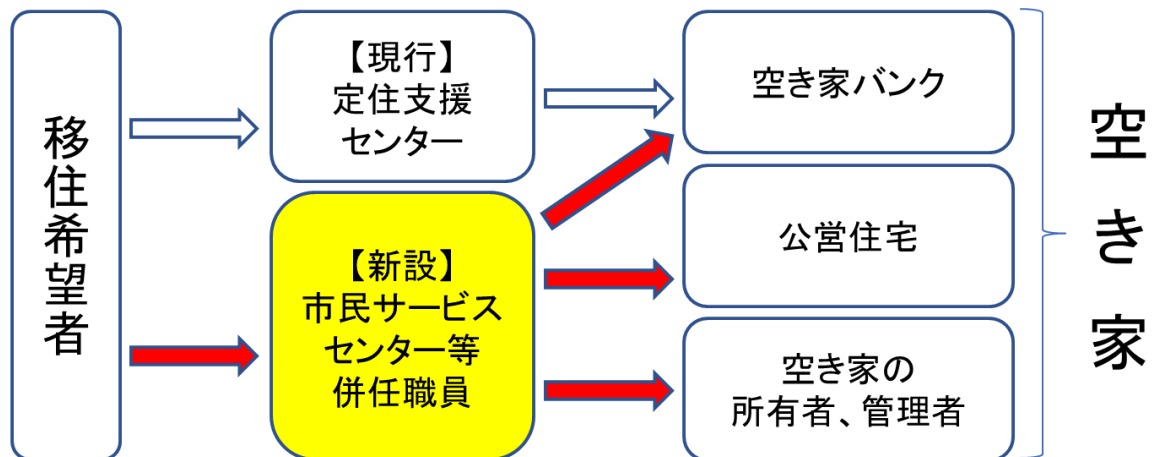


項目	光熱水費	食費	ガソリン代	その他経費
金額	4,000円	15,000円	2,000円	3,000円

都市と地方、あるいは本土と離島等の違いから、物価などの生活感覚を不安に感じる移住者は少なくない。本市あるいは甌島を初めて訪れる方が、実際にかかる生活費用を体験することで、移住後の生活のイメージをより具体的に持てるようになると考える。

3 現在、移住・定住関連の業務を行っている企画政策課内定住支援センターに加え、甌島地域に移住・定住相談窓口担当の職員の設置

専門の不動産業者がない甌島地域においては、移住者に対する住宅に関する窓口はないとの指摘が多くなされた。現状、住宅が見つからないことにより移住を断念する可能性が非常に高い状況にある。そこで、「移住希望者」と「公営住宅や家の所有者、管理者」等を結び付ける第1次的な「窓口」を担当する職員の配置を提案する。



この窓口は、移住定住に関する定住支援センターの各種業務より、さらに現地に近い視点から、空家バンク等に掲出されていない空家の状況等を把握すること、また貸し出しの意思のある住居の所有者等の情報集約を行い、移住希望者へより多くの選択肢を提供できるようにするものである。

職員については、具体的には、甌島振興局又は同局市民サービスセンター職員を移住定住業務に併任させる形とし、将来的に移住希望者が多くなった場合は、専従の職員を置くことも検討する。

#### 4 移住希望者に対する引っ越し補助金制度の新設

現在、企画政策課において、移住・定住政策として、定住住宅取得補助金、定住住宅リフォーム補助金等が措置されている。これら補助金政策に関する全体的な傾向として、「引っ越し後」の補助金が多いことが指摘された。

そこで、移住のハードルを下げるため、本市において移住体験をした上で、定住する意思を持った世帯に対する引っ越し補助金制度の新設を提案する。これは、引っ越し作業にかかる費用に対する補助である。

現状、Uターン者等を除いては、移住に伴って住居を新築、購入したりするケースはあまり想定できないものと考えられる。お試し移住者等を含めた、幅広い移住希望者へ向け、初期段階に必要な経費を補助し、スムーズな移住へつながるものと期待できる。

## 期待される効果

1 教職員住宅等公営住宅を「お試し住宅」として活用することで、職員が移住相談を受けた際に住居を紹介しやすくなり、相談者を不安な思いにさせることなく迅速な対応が可能となる。これは後述の期待される効果2にもいい影響を及ぼす。また移住希望者への体験住宅として利用できれば、新たに多くの費用を費やさなくとも、移住体験住宅を増やすことができる。これにより聞き取りによって浮き出た課題の、体験住宅の空きがなくしていた人へサービスを行き届かせることができる。

また副次的な効果として、空家の効率的な活用や、公営住宅を使用していない期間に発生していた、管理費等を削減することも可能と考える。

2 移住・定住相談窓口を設置することによって、その地域に詳しい専門の職員を配置することができ、職員も移住・定住の業務に専念しやすくなる。その結果、移住者や移住希望者、今住んでいる市民へのサービス向上につながる。そして、移住者への聞き取りによって浮き出た課題の「住む場所が見つからない」という問題への解決につながると考える。

3 実際の生活にかかる費用を実費として負担してもらうことによって、移住希望者は移住後の生活をイメージしやすくなり、移住へのハードルが下がると考える。

また生活費を薩摩川内市で使うことになるので、地域の食料品店や飲食店への経済効果も見込まれる。

これらの効果により、移住体験者が増加することが予想され、人口増につながると考えられる。また薩摩川内市人口ビジョンにある、令和42年(2060年)の人口規模を68,890人(転入・転出のプラスマイナスをゼロに、転出超過の状況を改善し、令和22年(2040年)までには人口移動を半減させる)という目標達成につながるのではと思われる。人口が増えることによって、地域コミュニティの活性化や経済効果が、行政的には税収が上がるが見込まれる。これらの効果は移住者だけではなく、今住んでいる薩摩川内市民の満足度向上へとつながる。



推計人口：91,803人

推計世帯：40,939世帯

出典：令和3年度版統計さつまませんだい  
具体的に上記のとおり、人口が一人増えると139,000円の税収が見込まれる。